

## 6. 投資信託に関する認知・接触状況(全体)

### (1) 投資信託の認知状況

投資信託については、「よく知っている」が13.8%、「言葉だけは知っている」が78.7%、「言葉も知らなかった」が7.4%であり、投資信託という「言葉だけは知っている」人が大多数を占めている。

時系列でも、大きな変化はみられず、前回まで続いた「言葉も知らなかった」の微増傾向に歯止めがかかった。

対象者属性別でみると、性別では、男性の方が「よく知っている」率が高い。

年代別では、「よく知っている」率は年代が高いほど高く、20代では4.3%に過ぎないが、70歳以上では24.0%にのぼる。「言葉も知らなかった」は20代で22.7%と、他の年齢層に比べて特に高い。

年収別では、「よく知っている」率は年収が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、800万円以上の層では3人に1人は知っている。

地域別では大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、「よく知っている」率は現在保有層では64.1%と特に高く、保有経験層でも半数近く(44.4%)を占める。保有未経験層の中では、やはり投信関心層で最も高く25.3%であるが、中間層や非関心層では10%に満たない。

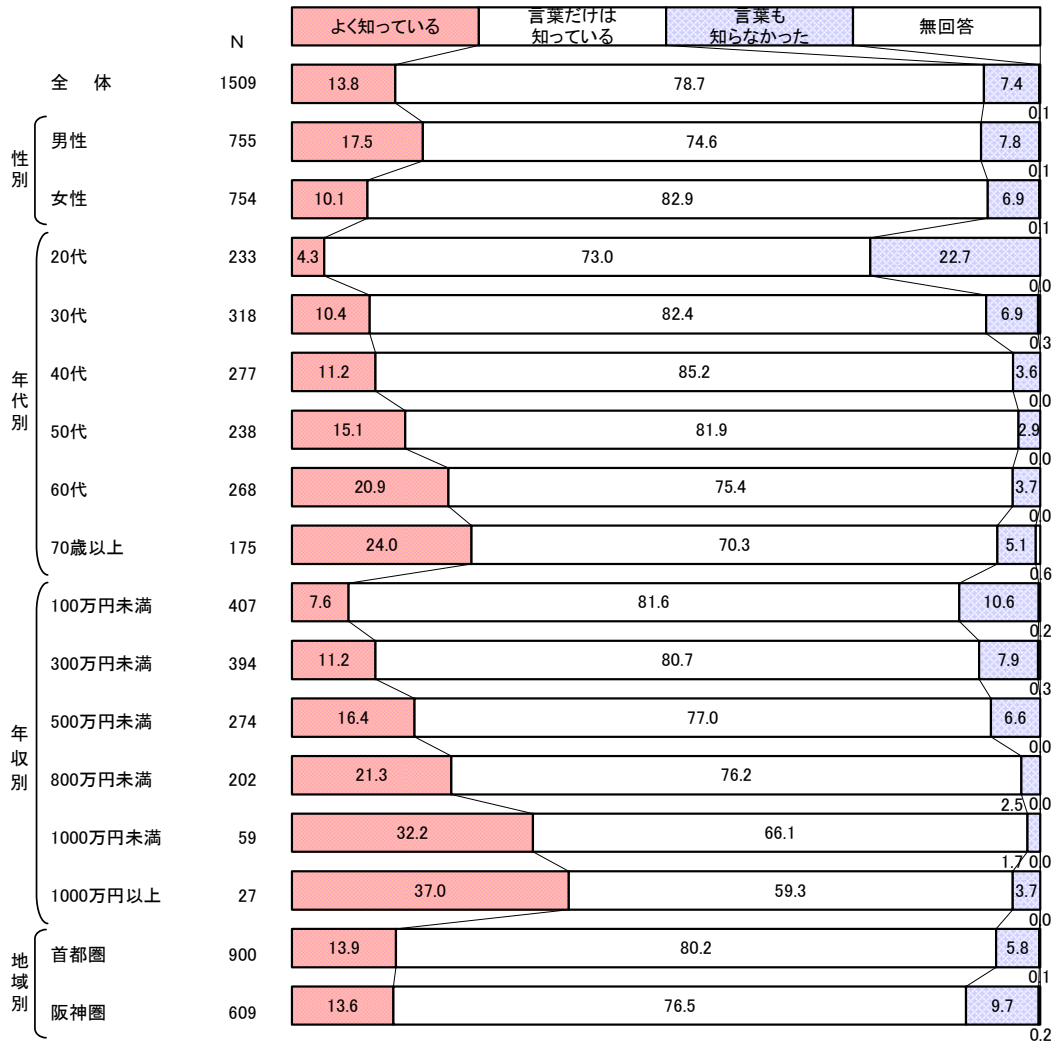
投資信託保有種類別では、「よく知っている」率は株式投資信託保有層では70%前後と高いが、その他投資信託保有層では50%ほどと低くなっている。

#### 問1【投資信託の認知状況(単数回答)／時系列】

	N	よく知っている	言葉だけは知っている	言葉も知らなかった	無回答
平成23年	1509	13.8	78.7	7.4	0.1
平成22年	1514	12.7	79.7	7.5	0.0
平成20年	1507	13.4	80.4	6.2	0.0
平成19年	1517	14.0	81.7	4.3	0.0

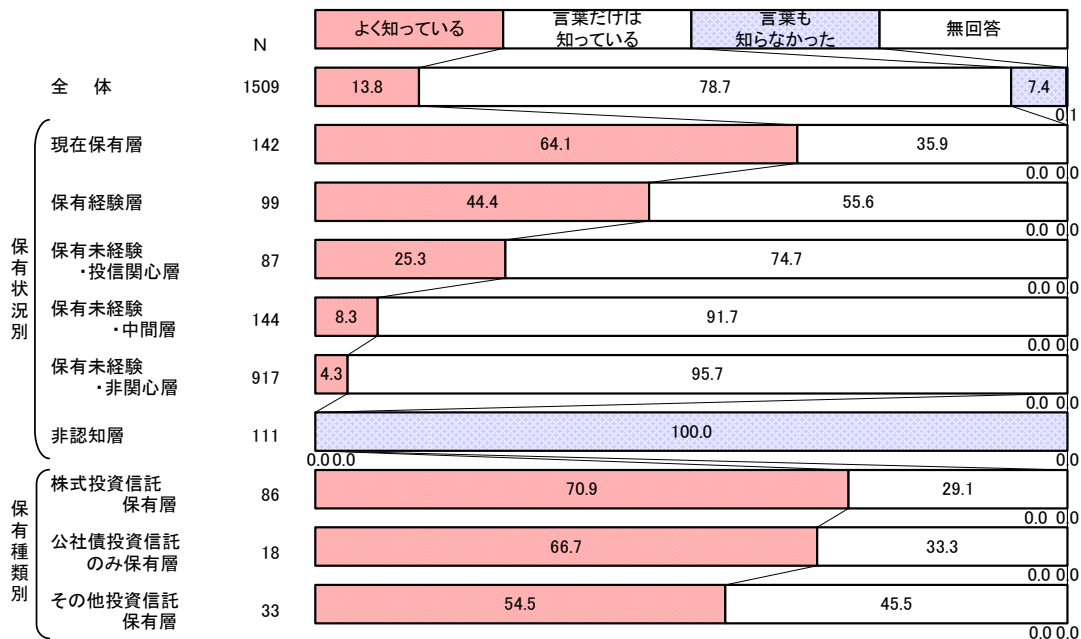
問1【投資信託の認知状況(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問1【投資信託の認知状況(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



## (2) 投資信託に対する関心度(投資信託認知者)

投資信託認知者に投資信託に対する関心度を尋ねると、「関心がある」は4.2%、「やや関心がある」は11.2%であり、これらを合わせた“関心層”は15.4%である。一方、「あまり関心がない」(34.8%)と「関心がない」(35.5%)を合わせた“非関心層”は70.3%であり、“関心層”を大きく上回る。「関心がある」～「関心がない」に5～1点の得点を与えて平均値を算出したところ、2.1点となった。

時系列でも、大きな変化はみられない。

対象者属性別についてみると、性別では、“関心層”比率に大きな違いはみられないが、“非関心層”比率は男性より女性の方がやや高い。

年代別では、“関心層”比率は40代までは10%前後と低いが、50～60代では20%近くに上がり、70歳以上では24.3%と最も高い。

年収別では、“関心層”比率は年収が高いほど上がる傾向がみられる。

地域別では、“関心層”比率に大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、“関心層”比率は現在保有層では70.4%と特に高く、保有経験層でも29.3%が関心を持っているが、保有未経験層では7.5%にとどまる。

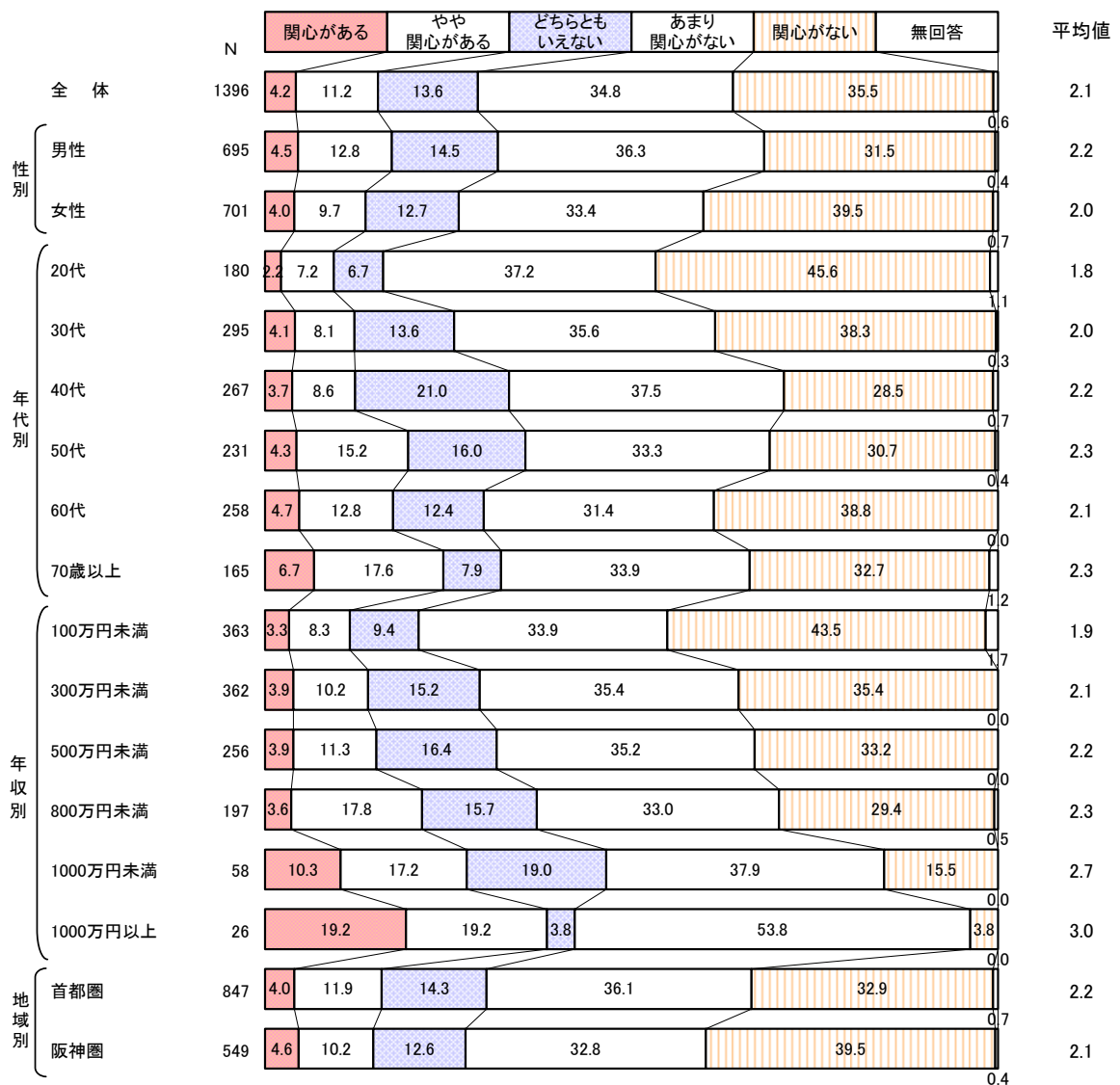
投資信託保有種類別では、N数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、各層の間では大きな差はみられない。

問1-1 【投資信託の関心度(単数回答)／時系列－投資信託認知者ベース】

	N	関心度					平均値
		関心がある	やや関心がある	どちらともいえない	あまり関心がない	関心がない	
平成23年	1396	4.2	11.2	13.6	34.8	35.5	2.1
平成22年	1400	3.6	11.3	14.9	32.9	37.2	2.1

問 1 - 1 【投資信託の関心度(単数回答)／対象者属性別—投資信託認知者ベース】

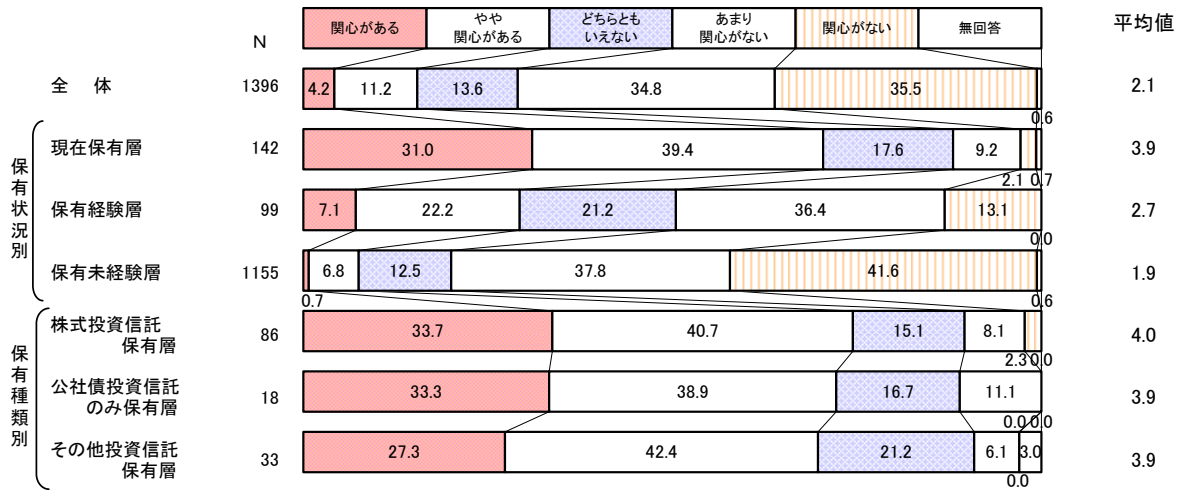
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 1 - 1 【投資信託の関心度(単数回答)／保有状況・保有種類別

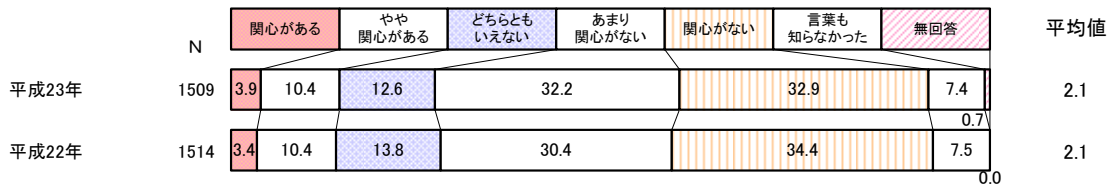
— 投資信託認知者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【参考】

問 1 - 1 【投資信託の関心度(単数回答)／時系列—全数ベース】



### (3) 投資信託のイメージ

投資信託に対するイメージとしては、「仕組みがわかりにくい」(37.6%)と「元本割れが怖い」(33.5%)が同程度で高く、これら2つが主なイメージとなっている。次いで、「用語がわかりにくい」が18.4%となっている。一方、「わからない・特にない」は34.1%であり、具体的なイメージができない人も多い。

対象者属性別についてみると、性別では、大きな差がみられるイメージはない。

年代別では、「仕組みがわかりにくい」は30～40代を中心とした層では高いが、年代が上がるにしたがって低下する。「元本割れが怖い」は20代では16.3%と低いが、40代以上では35～40%超と高い。70歳以上では「元本割れが怖い」が「仕組みがわかりにくい」を大きく上回り、主要イメージとなっている。「用語がわかりにくい」は年代が低いほどやや高い傾向がみられ、20代では「わからない・特にない」も46.4%と半数近くで特に高く、若年層にはまず投資信託の基礎知識の浸透が重要といえる。

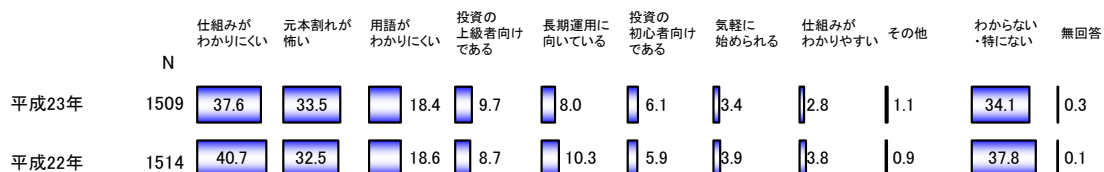
年収別にみると、高年収層ほど「わからない・特にない」率は低い。「元本割れが怖い」は100万円未満の層では30%未満と低いが、500万円以上800万円未満の層では48.5%と半数近くにのぼる。

地域別では大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、現在保有層や保有経験層は「元本割れが怖い」の方が「仕組みがわかりにくい」より高い。現在保有層は「長期運用に向いている」とともに、「投資の初心者向けである」「気軽に始められる」等も他の層より高く、投資の入り口として認識されている様子がうかがえる。一方、保有未経験層では、投資信託への関心が高いほど「仕組みがわかりにくい」が高い傾向がみられ、これが購入の大きなハードルのひとつとなっているといえる。「わからない・特にない」率は非認知層では71.2%と特に高く、関心層との差も大きい。

投資信託保有種類別では、N数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、これら3つの層のイメージには大きな差はみられない。

問 27 【投資信託のイメージ(重複回答)／時系列】



問 27 【投資信託のイメージ(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

	N	仕組みが わかりにくい	元本割れが 怖い	用語が わかりにくい	投資の 上級者向け である	長期運用に 向いている	投資の 初心者向け である	気軽に 始められる	仕組みが わかりやすい	その他	わからない ・特にな	無回答
全体	1509	37.6	33.5	18.4	9.7	8.0	6.1	3.4	2.8	1.1	34.1	0.3
性別												
男性	755	35.2	34.6	16.7	10.5	7.9	7.5	3.8	3.0	1.1	33.4	0.4
女性	754	40.1	32.4	20.0	9.0	8.1	4.6	2.9	2.7	1.1	34.9	0.1
年代別												
20代	233	39.9	16.3	24.5	10.7	3.9	1.7	1.7	0.9	0.9	46.4	0.4
30代	318	43.1	30.5	25.2	11.0	7.5	7.5	2.2	2.8	2.2	34.3	0.0
40代	277	41.2	38.6	15.2	11.2	10.8	4.3	2.9	2.9	1.4	27.1	0.0
50代	238	38.2	41.6	16.4	8.4	9.7	8.0	4.2	2.5	0.4	31.1	0.0
60代	268	32.8	35.4	16.0	9.7	7.8	6.0	3.4	3.0	0.0	34.7	0.7
70歳以上	175	25.7	39.4	9.1	5.7	8.0	9.7	7.4	5.7	1.1	32.0	0.6
年収別												
100万円未満	407	39.8	26.5	21.9	9.3	6.6	3.2	2.0	2.5	0.5	41.3	0.2
～300万円 未満	394	36.5	32.0	15.2	8.9	6.9	6.9	3.0	2.8	1.5	36.0	0.5
～500万円 未満	274	36.1	33.6	20.4	8.8	7.3	8.4	5.1	3.3	0.4	32.8	0.0
～800万円 未満	202	42.6	48.5	19.8	12.4	11.4	6.9	5.0	3.5	0.5	23.8	0.0
～1000万円 未満	59	35.6	35.6	11.9	8.5	18.6	13.6	0.0	3.4	5.1	20.3	0.0
1000万円 以上	27	33.3	48.1	7.4	18.5	7.4	11.1	14.8	0.0	0.0	22.2	0.0
地域別												
首都圏	900	37.4	33.1	19.9	10.2	8.1	7.3	3.9	3.2	1.1	32.8	0.2
阪神圏	609	37.9	34.0	16.1	9.0	7.9	4.3	2.6	2.3	1.0	36.1	0.3

問 27 【投資信託のイメージ(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

	N	仕組みが わかりにくい	元本割れが 怖い	用語が わかりにくい	投資の 上級者向け である	長期運用に 向いている	投資の 初心者向け である	気軽に 始められる	仕組みが わかりやすい	その他	わからない ・特にな	無回答
全体	1509	37.6	33.5	18.4	9.7	8.0	6.1	3.4	2.8	1.1	34.1	0.3
保有状況別												
現在保有層	142	31.7	56.3	21.8	7.7	28.9	27.5	18.3	4.9	0.7	4.9	0.0
保有経験層	99	22.2	55.6	17.2	6.1	21.2	15.2	11.1	4.0	1.0	9.1	2.0
保有未経験 ・投資関心層	87	50.6	36.8	20.7	11.5	14.9	13.8	6.9	3.4	2.3	4.6	0.0
保有未経験 ・中間層	144	45.1	47.9	18.8	15.3	9.7	4.2	0.0	1.4	2.1	21.5	0.0
保有未経験 ・非関心層	917	39.6	28.6	18.4	10.3	3.4	2.0	0.7	2.8	0.9	41.5	0.2
非認知層	111	23.4	5.4	12.6	2.7	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	71.2	0.0
保有種類別												
株式投資信託 保有層	86	32.6	53.5	20.9	10.5	27.9	26.7	22.1	7.0	1.2	4.7	0.0
公社債投資信託 のみ保有層	18	27.8	61.1	27.8	5.6	44.4	27.8	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0
その他投資信託 保有層	33	30.3	63.6	21.2	3.0	24.2	33.3	15.2	3.0	0.0	3.0	0.0

#### (4) 投資信託の商品内容認知状況

投資信託の特徴として知っているものを答えてもらったところ、「元本の保証はない」が44.0%で最も高い。以下、「銀行等の金融機関でも購入できる」(26.6%)、「国内の投資信託と海外の投資信託がある」(26.2%)、「価格変動があり、外国投資は為替リスクがある」(26.1%)、「リスクとリターンは相互関係にある」(24.4%)が20%台で続き、「MRF・MMF・中期国債ファンドは投資信託商品」(18.4%)と「投資信託会社が運用している」(15.3%)は15%以上が認知しているが、これら以外の項目の認知率は10%に満たない。なお、「知っているものは特にない」が42.3%みられ、何も知らない人が40%以上を占めている。

時系列でみると、前回まで続いていた「知っているものは特にない」の増加傾向には歯止めがかかったようである。「国内の投信と海外の投信がある」の認知率は前々回から前回にかけて9.7ポイント低下したが、今回は前回から4.5ポイント上昇した。

対象者属性別については、性別では、「知っているものは特にない」は女性の方が高く、認知率は男性の方がやや高い項目が多い。

年代別では、「知っているものは特にない」は20代で67.8%近くと特に高く、20代はいずれの項目でも全般的に認知率が低い。

年収別でみると、多くの項目で年収が高くなるほど認知率が高くなる傾向がみられ、“500万円以上”の比較的年収の高い層では「知っているものは特にない」は20%前後と低い。

地域別では、「国内の投信と海外の投信がある」「価格変動があり、外国投資は為替リスクがある」「投資信託会社が運用している」の認知率は首都圏の方が阪神圏よりやや高い。

投資信託保有状況別にみると、いずれの項目とも現在保有層の認知率が最も高く、それに次いで保有経験層と保有未経験・投信関心層が同程度で、以下、未経験・投信中間層、未経験・非関心層、非認知層の順となっている項目が多い。「知っているものは特にない」は逆の順に高くなっており、非認知層では83.8%以上、保有未経験・非関心層では52.0%とほぼ半数となっている。

投資信託保有種類別にみると、「MRF・MMF・中国ファンドは投信商品」や「投資信託会社が運用している」の認知率は株式投資信託保有層の方がその他投資信託保有層よりやや高い。

問 28 【投資信託の商品内容認知状況(重複回答)／時系列】

	N	元本の保証はない	銀行等の金融機関でも購入できる	国内の投信と海外の投信がある	価格変動・外国投資は為替リスクがある	リスクとリターンは相互関係にある	MRF・MMF・中国Fは投信商品	投資信託会社が運用している	基準価額は新聞や投信会社HPで閲覧可	手数料とは別に信託報酬がかかる	日本に投信の評価を行う会社がある	信託財産は分別保管されている	知っているものは特にない	無回答
平成23年	1509	44.0	26.6	26.2	26.1	24.4	18.4	15.3	9.0	8.0	4.7	4.6	42.3	0.3
平成22年	1514	40.0	26.0	21.7	22.5	21.9	16.6	15.1	8.6	6.5	4.4	4.9	45.9	0.1
平成20年	1507	45.9	34.9	31.4	28.3	25.7	21.1	18.0	10.9	9.3	5.6	4.0	38.0	0.2
平成19年	1517	45.6	38.9	31.0	26.4	25.2	21.0	18.5	11.5	9.4	4.7	5.8	36.5	0.1



## 問 28【投資信託の商品内容認知状況(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	元本の保証はない	銀行等の金融機関でも購入できる	国内の投信と海外の投信がある	価格変動・外国投資は為替リスクがある	リスクとリターンは相互関係にある	MRF・MMF・中国Fは投資商品	投資信託会社が運用している	基準価額は新聞や投信会社HPで閲覧可	手数料とは別に信託報酬がかかる	日本に投信の評価を行う会社がある	信託財産は分別保管されている	知っているものは特にな	無回答
全体	1509	44.0	26.6	26.2	26.1	24.4	18.4	15.3	9.0	8.0	4.7	4.6	42.3	0.3
性別														
男性	755	46.9	29.4	29.0	29.1	30.2	19.9	18.5	9.8	10.2	6.4	6.0	38.4	0.4
女性	754	41.1	23.9	23.5	23.1	18.6	16.8	12.1	8.2	5.7	3.1	3.2	46.3	0.3
年代別														
20代	233	16.7	11.2	11.6	12.9	10.7	6.4	10.7	4.7	3.9	4.7	2.6	67.8	0.4
30代	318	39.6	26.4	21.1	22.3	24.2	15.4	15.1	9.7	9.7	5.3	5.3	48.1	0.0
40代	277	55.2	25.6	31.4	28.9	33.9	24.2	15.2	9.7	9.0	3.6	2.9	28.5	0.0
50代	238	51.7	31.5	31.1	32.4	29.0	25.6	18.1	8.8	8.8	4.6	5.5	35.3	0.4
60代	268	51.1	34.0	31.7	28.7	25.4	17.5	16.8	9.7	9.3	5.2	5.6	36.9	0.7
70歳以上	175	49.1	31.4	32.0	33.7	20.0	21.7	16.0	11.4	5.1	4.6	5.7	37.7	0.6
年収別														
100万円未満	407	35.9	19.2	18.7	18.7	17.9	12.3	9.8	6.9	4.9	2.7	2.9	52.1	0.0
～300万円未満	394	39.1	25.9	26.4	25.1	20.6	19.3	13.2	8.6	7.1	4.6	3.8	45.2	0.5
～500万円未満	274	46.0	29.2	28.1	31.0	25.5	19.0	15.7	7.3	6.6	5.5	4.4	39.8	0.7
～800万円未満	202	62.9	36.6	36.1	34.7	41.6	26.7	21.8	11.4	11.9	5.0	5.4	23.3	0.0
～1000万円未満	59	61.0	47.5	37.3	44.1	44.1	28.8	32.2	25.4	25.4	11.9	13.6	28.8	0.0
1000万円以上	27	63.0	40.7	37.0	48.1	40.7	25.9	37.0	18.5	18.5	7.4	7.4	18.5	0.0
地域別														
首都圏	900	44.2	27.8	29.2	29.2	26.1	20.1	17.9	10.3	8.4	5.7	5.4	41.1	0.6
阪神圏	609	43.7	25.0	21.8	21.5	21.8	15.8	11.5	7.1	7.2	3.3	3.3	44.2	0.0

## 問 28【投資信託の商品内容認知状況(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	元本の保証はない	銀行等の金融機関でも購入できる	国内の投信と海外の投信がある	価格変動・外国投資は為替リスクがある	リスクとリターンは相互関係にある	MRF・MMF・中国Fは投資商品	投資信託会社が運用している	基準価額は新聞や投信会社HPで閲覧可	手数料とは別に信託報酬がかかる	日本に投信の評価を行う会社がある	信託財産は分別保管されている	知っているものは特にな	無回答
全体	1509	44.0	26.6	26.2	26.1	24.4	18.4	15.3	9.0	8.0	4.7	4.6	42.3	0.3
保有状況別														
現在保有層	142	88.0	71.1	71.8	69.0	51.4	50.0	38.7	34.5	26.8	15.5	16.2	2.8	0.0
保有経験層	99	78.8	49.5	49.5	55.6	45.5	35.4	28.3	19.2	19.2	13.1	12.1	10.1	1.0
保有未経験・投信関心層	87	66.7	55.2	54.0	52.9	41.4	26.4	33.3	16.1	21.8	10.3	9.2	12.6	1.1
保有未経験・中間層	144	44.4	28.5	32.6	31.3	27.8	27.1	15.3	10.4	8.3	2.8	4.9	27.1	0.0
保有未経験・非関心層	917	35.3	17.0	16.0	15.8	18.5	11.7	10.3	4.0	3.5	2.5	2.0	52.0	0.2
非認知層	111	10.8	4.5	1.8	2.7	2.7	1.8	1.8	0.9	0.0	0.0	0.9	83.8	0.9
保有種類別														
株式投資信託保有層	86	93.0	75.6	76.7	74.4	55.8	57.0	47.7	40.7	31.4	18.6	19.8	2.3	0.0
公社債投資信託のみ保有層	18	83.3	61.1	50.0	66.7	50.0	38.9	38.9	16.7	27.8	16.7	5.6	0.0	0.0
その他投資信託保有層	33	84.8	66.7	78.8	66.7	45.5	39.4	18.2	33.3	18.2	9.1	12.1	0.0	0.0

## (5) 投資信託について入手したい情報

投資信託について入手したい情報としては、「分配金の額」(15.0%)、「基準価額」(14.2%)、「騰落率」(12.1%)、「販売手数料率・額」(11.2%)の順となっている。ただし、「特にない・よくわからない」が73.8%を占め、何らかの情報を得たいと考えている人は4人に1人ほどにとどまる。

時系列では、大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、いずれの項目も男性が女性を上回り、「特にない・よくわからない」は女性の方が高い。

年代別では、「特にない・よくわからない」は20代で82.0%と特に高い。

年収別では、多くの項目で年収が高くなるほど比率が高くなる傾向がみられる。

地域別では「特にない・わからない」は首都圏より阪神圏の方がやや高い。

投資信託保有状況別については、多くの項目で現在保有層が最も高くなっており、中でも「分配金の額」や「基準価額」は50%以上と高い。「特にない・よくわからない」は現在保有層が23.2%で最も低いのは当然であるが、次いで保有未経験・投資関心層が32.2%で、保有経験層(46.5%)を下回っており、関心層の方がより多様な情報を入手したいと感じているようである。なお、他の保有未経験層や非認知層では「特にない・わからない」が約70~90%にのぼる。

投資信託保有種類別にみると、株式投資信託保有層とその他投資信託保有層とでは特に目立った違いはみられない。

### 問 29 【投資信託について入手したい情報(重複回答)／時系列】

	N	分配金の額	基準価額	騰落率	販売手数料率・額	決算頻度	純資産残高	信託報酬率・額	信託期間	設定年月日	信託財産留保金のあるなし	特にない・よくわからない	その他	無回答
平成23年	1509	15.0	14.2	12.1	11.2	8.5	8.0	8.0	6.4	3.4	3.4	73.8	0.7	0.3
平成22年	1514	14.7	13.8	10.3	9.1	6.8	6.9	6.9	5.2	2.4	2.2	74.4	0.8	0.3

問 29 【投資信託について入手したい情報(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	分配金の額	基準価額	騰落率	販売手数料率・額	決算頻度	純資産残高	信託報酬率・額	信託期間	設定年月日	信託財産留保金のあるなし	特になくよくわからない	その他	無回答
全体	1509	15.0	14.2	12.1	11.2	8.5	8.0	8.0	6.4	3.4	3.4	73.8	0.7	0.3
性別														
男性	755	18.5	16.6	15.0	14.0	10.2	10.1	10.2	8.7	4.6	4.5	69.5	0.7	0.3
女性	754	11.5	11.8	9.2	8.4	6.9	6.0	5.8	4.1	2.3	2.3	78.1	0.8	0.4
年代別														
20代	233	9.0	10.7	10.7	7.3	8.6	5.2	6.0	5.2	3.0	3.0	82.0	0.4	0.4
30代	318	15.7	12.3	11.9	12.6	9.4	6.3	10.1	6.3	4.1	4.7	73.6	0.6	0.0
40代	277	15.5	18.4	15.9	13.7	8.7	9.4	10.5	8.3	2.9	3.2	70.4	1.4	0.0
50代	238	15.1	15.1	13.0	15.5	5.9	10.9	9.7	4.6	3.8	2.1	70.6	0.0	0.4
60代	268	16.0	11.9	9.7	8.2	8.2	6.7	5.6	5.2	2.6	2.2	77.2	0.4	0.0
70歳以上	175	19.4	17.7	10.3	8.6	10.9	10.9	4.6	9.7	4.6	5.1	68.0	1.7	1.7
年収別														
100万円未満	407	8.6	12.0	9.3	7.6	6.1	5.2	5.4	3.7	2.2	2.5	81.1	0.0	0.5
~300万円未満	394	14.2	14.0	10.2	9.6	7.9	8.1	6.6	4.8	2.8	2.5	75.4	1.3	0.5
~500万円未満	274	19.7	12.4	12.0	12.4	9.1	6.6	7.7	10.2	3.3	4.7	70.1	0.4	0.4
~800万円未満	202	22.3	19.8	18.8	16.8	12.4	13.4	12.4	8.9	5.0	3.5	64.4	1.0	0.0
~1000万円未満	59	30.5	28.8	27.1	30.5	18.6	16.9	23.7	16.9	11.9	10.2	49.2	0.0	0.0
1000万円以上	27	25.9	33.3	40.7	22.2	25.9	22.2	25.9	11.1	11.1	3.7	48.1	3.7	0.0
地域別														
首都圏	900	17.0	15.8	14.3	12.8	10.4	9.0	9.4	7.9	4.0	3.9	71.1	0.9	0.6
阪神圏	609	12.2	11.8	8.7	8.9	5.7	6.6	5.9	4.3	2.6	2.6	77.8	0.5	0.0

問 29 【投資信託について入手したい情報(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	分配金の額	基準価額	騰落率	販売手数料率・額	決算頻度	純資産残高	信託報酬率・額	信託期間	設定年月日	信託財産留保金のあるなし	特になくよくわからない	その他	無回答
全体	1509	15.0	14.2	12.1	11.2	8.5	8.0	8.0	6.4	3.4	3.4	73.8	0.7	0.3
保有状況別														
現在保有層	142	56.3	51.4	36.6	30.3	27.5	33.1	19.7	22.5	16.2	11.3	23.2	1.4	0.0
保有経験層	99	28.3	24.2	23.2	22.2	15.2	19.2	12.1	9.1	7.1	8.1	46.5	2.0	1.0
保有未経験・投信関心層	87	34.5	39.1	34.5	34.5	21.8	19.5	27.6	18.4	6.9	9.2	32.2	0.0	0.0
保有未経験・中間層	144	18.8	12.5	16.7	16.7	9.7	9.0	13.2	8.3	1.4	2.1	69.4	0.7	0.0
保有未経験・非関心層	917	6.2	6.4	5.3	5.0	4.1	2.4	3.7	2.9	1.2	1.6	86.7	0.7	0.4
非認知層	111	3.6	4.5	3.6	2.7	3.6	2.7	2.7	0.9	2.7	0.9	94.6	0.0	0.0
保有種類別														
株式投資信託保有層	86	58.1	55.8	39.5	36.0	27.9	37.2	24.4	22.1	19.8	14.0	24.4	1.2	0.0
公社債投資信託のみ保有層	18	38.9	38.9	38.9	22.2	33.3	27.8	11.1	33.3	22.2	5.6	22.2	0.0	0.0
その他投資信託保有層	33	66.7	48.5	30.3	24.2	24.2	27.3	15.2	18.2	6.1	9.1	18.2	0.0	0.0

## (6) 確定拠出年金の加入状況

確定拠出年金(日本版 401k)の加入状況については、「加入しており、投資信託を購入している」は1.8%、「加入しているが、投資信託は購入していない」は4.0%であり、両者を合わせた“加入率”は5.8%に過ぎない。

時系列でも、大きな変化はみられない。

対象者属性別については、性別では、“加入率”は女性より男性の方がやや高い。

年代別では、“加入率”は30～50代でやや高めである。

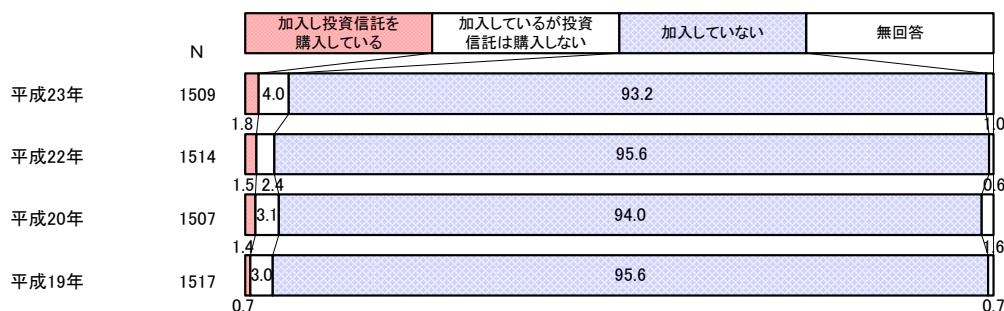
年収別では、“加入率”は300万円未満までの層では差はみられないが、それ以上の年収では年収が高いほど高くなる傾向がみられ、800万円以上1000万円未満の層では30%近くにのぼる。

地域別では“加入率”に大きな差はみられない。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では「加入し投資信託を購入している」が9.2%と特に高く、“加入率”も13.4%と10%を超えている。次いで“加入率”が高いのは、保有未経験・投信関心層であり、この層では「加入しているが投資信託は購入していない」が9.2%と高い。

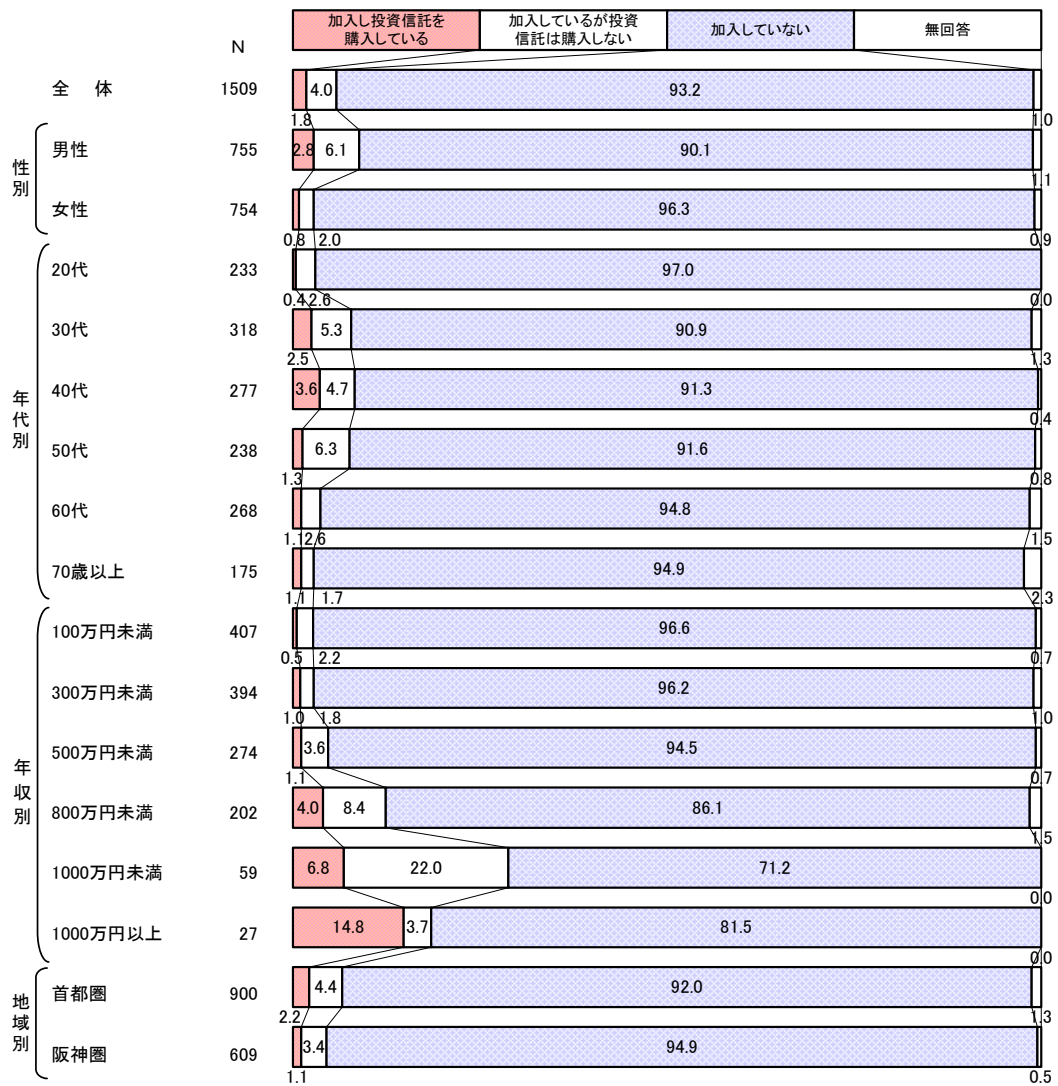
投資信託保有種類別では、N数(サンプル数)が少ない層があるため参考データではあるが、今回の調査対象者のその他投資信託保有層の中には“加入”している人がおらず、株式投資信託保有層や公社債投資信託のみ保有層に比べて低い。

問 30 【確定拠出年金の加入状況(単数回答)／時系列】



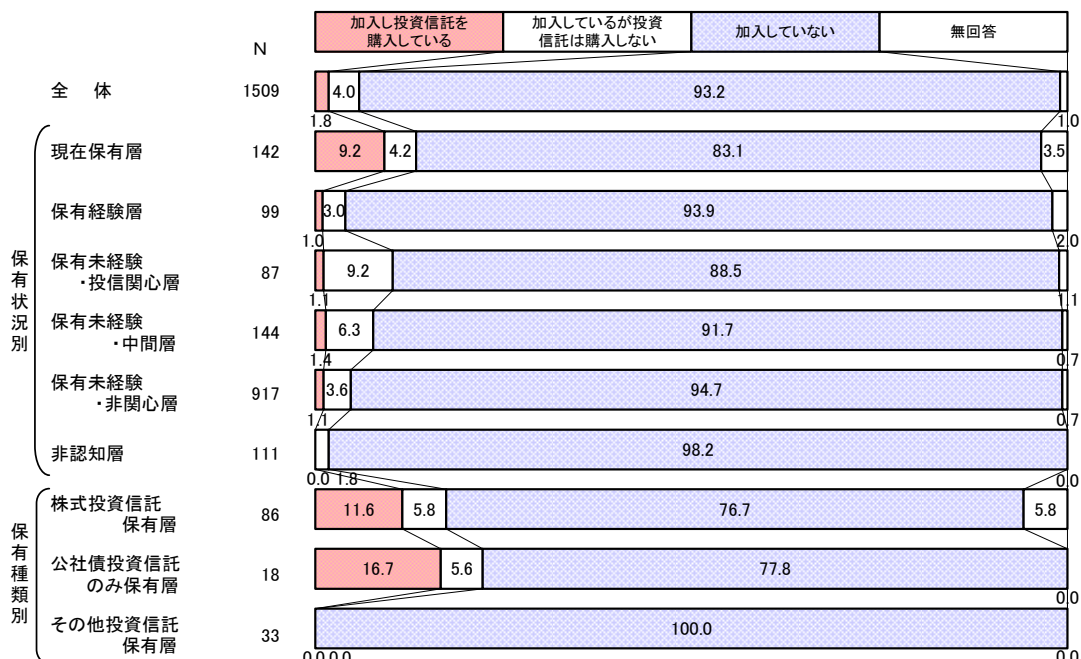
問 30 【確定拠出年金の加入状況(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 30 【確定拠出年金の加入状況(単数回答)／保有状況別・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



## (7) 上場投資信託（ETF・不動産投信）の認知と興味

### ① 上場投資信託の認知

証券取引所に上場している投資信託の認知率は、「不動産投信（J-REIT）」は9.0%、「ETF（株価指数等に連動する投資信託）」は7.2%である。この2つの「どちらも知らない」が88.0%と大半を占め、上場投資信託についてはあまり知られていない。

時系列でも、「不動産投信」「ETF」とも認知率に大きな変化はみられない。

対象者属性別については、性別では、「不動産投信」「ETF」とも認知率は男性の方がやや高い。

年代別でみると、「不動産投信」の認知率は20代では4.3%と低めだが、70歳以上では13.7%とやや高い。「ETF」でも20代の認知率はやや低い。

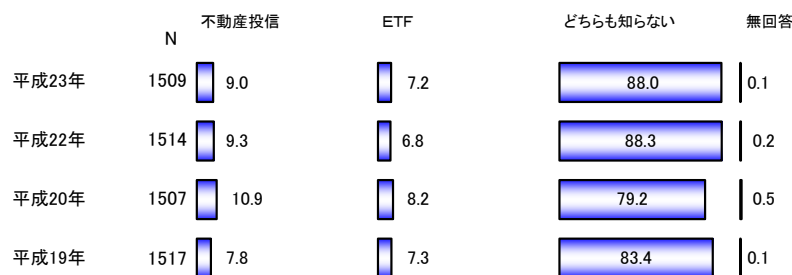
年収別では、いずれも年収が高くなるほど認知率が高くなる傾向がみられ、800万円以上1000万円未満の層では「不動産投信」「ETF」とも25%前後にのぼる。

地域別では大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、現在保有層はともに31.7%が認知しており特に高い。保有経験層では「不動産投信」（27.3%）に比べて「ETF」（14.1%）は低い。保有未経験・投信関心層ではともに認知率は20%台と比較的高く、「ETF」認知率は保有経験層を上回る。他の保有未経験層や非認知層では、90%前後が「どちらも知らない」であり、認知率は低い。

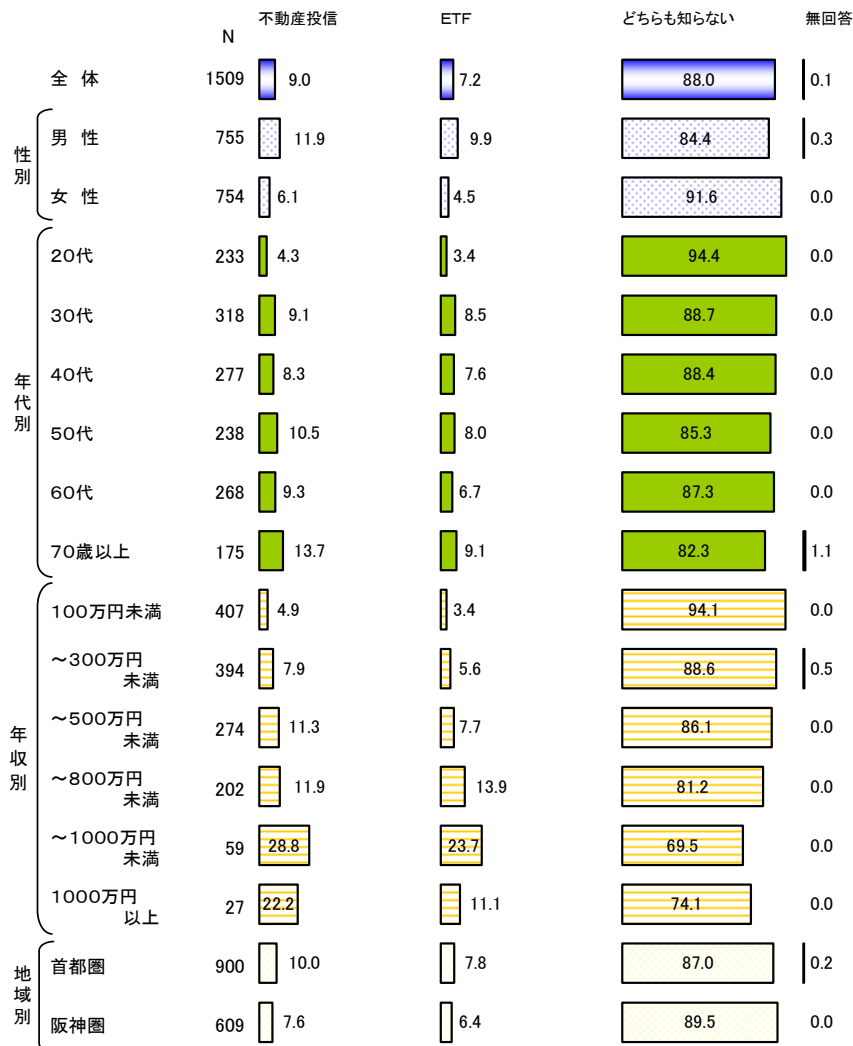
投資信託保有種類別でみると、株式投資信託保有層はいずれの認知率とも30%台後半と高い。

### 問31【上場投資信託の認知（重複回答）／時系列】



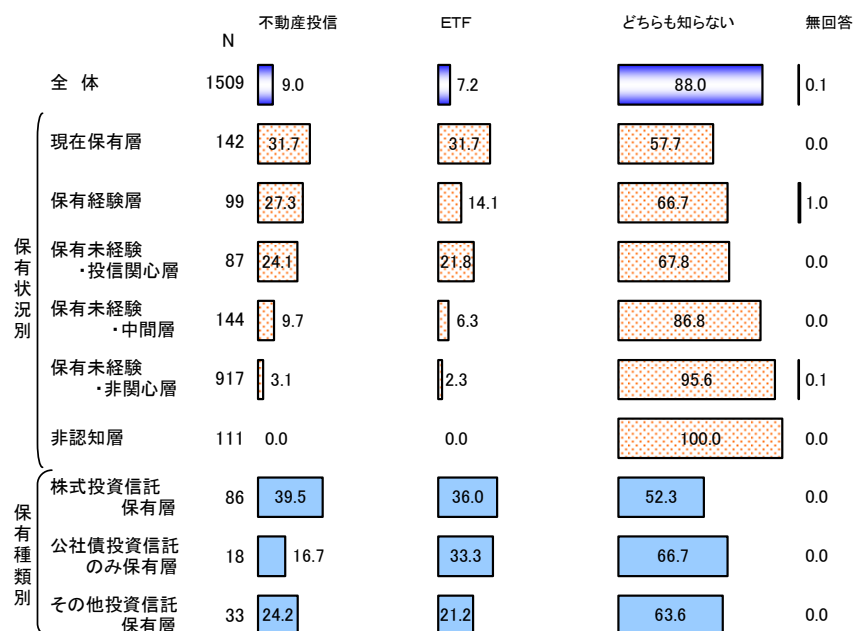
### 問 31 【上場投資信託の認知(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



### 問 31 【上場投資信託の認知(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



## ② E T F への興味

上場投資信託のうち E T F については、「現在保有している」＝保有率は 1.0%、「購入してみたい」＝購入意向率は 1.1%である。「詳しく知らないのでわからない」が 70.2%を占め、「購入するつもりはない」(26.3%)を大きく上回っている。

時系列でみると、保有率に大きな変化はみられず、購入意向率も前回まで続いた微減傾向は止まっている。

対象者属性別にみると、性別では、保有率に大きな差はみられない。

年代別でみると、20代では「購入するつもりはない」は 13.7%と低く、大半が「詳しく知らないのでわからない」であるが、年代が上がるにつれて「購入するつもりはない」という否定的意見が高くなり、60代以上の高年齢層では 35%前後を占めている。

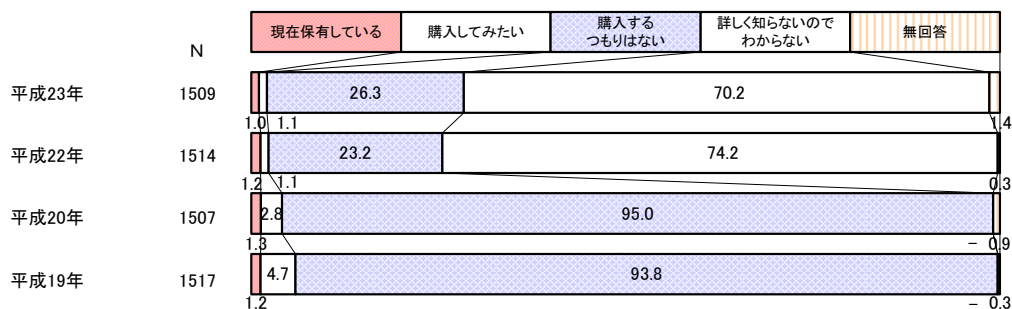
年収別でみると、保有率は 800 万円以上 1000 万円未満の層で 5.1%とやや高い。1000 万円未満までの層と比較すると、「購入するつもりはない」は 800 万円以上 1000 万円未満の層で、「詳しく知らないのでわからない」は 100 万円未満の層で最も高く、同じ非購入意向でも知識レベルの差がみられる。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、現在保有層で E T F を「現在保有している」のは 10.6%である。「購入してみたい」は現在保有層で 5.6%、保有未経験・投信関心層は 9.2%であるが、他の層ではみられない。「購入するつもりはない」は保有経験層では、49.5%と半数を占め、現在保有層の 27.5%を大きく上回る。保有未経験の各層や非認知層では「詳しく知らないのでわからない」が 70~80%と大半を占めている。

投資信託保有種類別については、N 数(サンプル数)が少ない層があるため、参考値ではあるが、E T F 保有率は株式投資信託保有層では 14.0%で、他の 2 つの層に比べて高めである。

### 問 32①【E T F への興味(単数回答)／時系列】

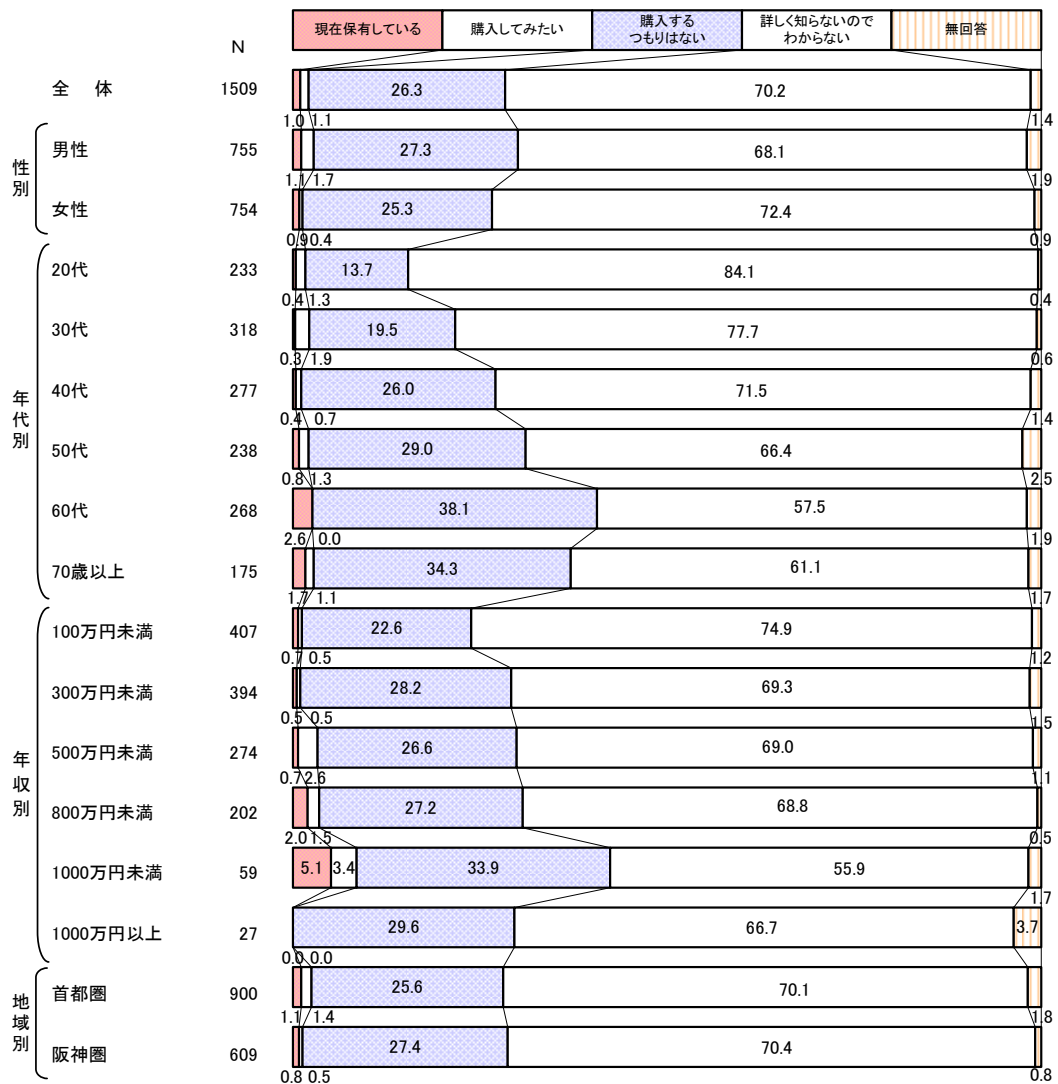


※ 平成 22 年より「詳しく知らないのでわからない」を追加。



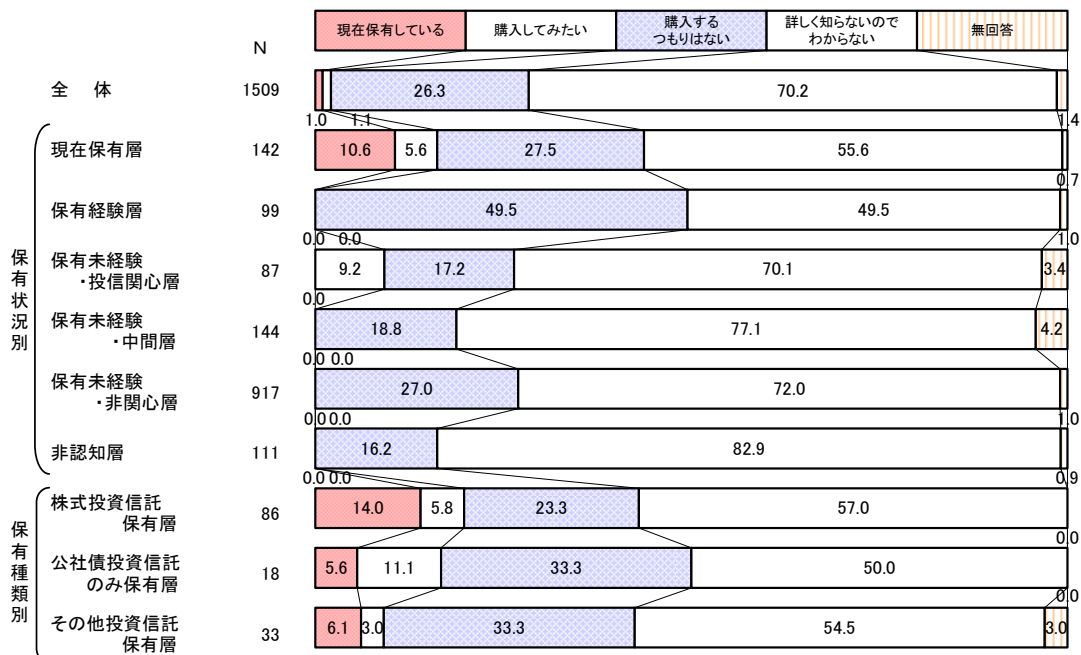
問 32①【ETFへの興味(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 32①【ETFへの興味(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



### ③不動産投信への興味

上場投資信託のうち不動産投信については、「現在保有している」＝保有率は1.1%、「購入してみたい」＝購入意向率は0.9%である。「詳しく知らないのでわからない」が69.1%を占め、「購入するつもりはない」(27.7%)を大きく上回っている。

時系列でみると、保有率に大きな変化はみられず、購入意向率も前回まで続いた微減傾向が止まっている。

対象者属性別にみると、性別では、保有率や購入意向率に大きな差はみられない。

年代別でみると、20代では「購入するつもりはない」は13.7%と低く、大半が「詳しく知らないのでわからない」であるが、年代が上がるにつれて「購入するつもりはない」が高くなり、60代以上では40%近くにのぼる。

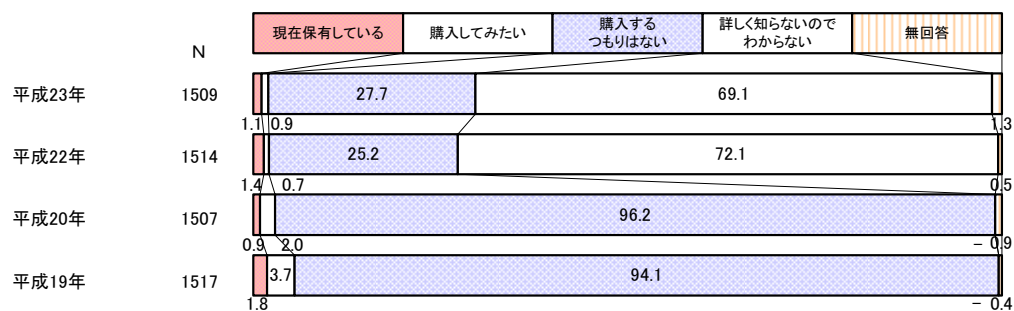
年収別では、保有率には大きな差はみられないが、購入意向率は800万円以上1000万円未満で8.5%と高い。「詳しく知らないのでわからない」は年収が100万円未満の低い層では74.2%と高いが、800万円以上1000万円未満の層では52.5%と低く、年収が高めの層では知識はあるが、購入しないという人が多い。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、現在保有層で不動産投信を「現在保有している」のは12.0%である。保有未経験・投信関心層では「購入してみたい」は8.0%みられる。「詳しく知らないのでわからない」は現在保有層や保有経験層では半数ほどを占めているが、保有未経験・投信関心層では65.5%、保有未経験の中間層と非関心層では70%台、非認知層では82.9%と高い。

投資信託保有種類別については、不動産投信保有率は株式投資信託保有層とその他投資信託保有層ではともに10%台であり、大きな差はみられない。

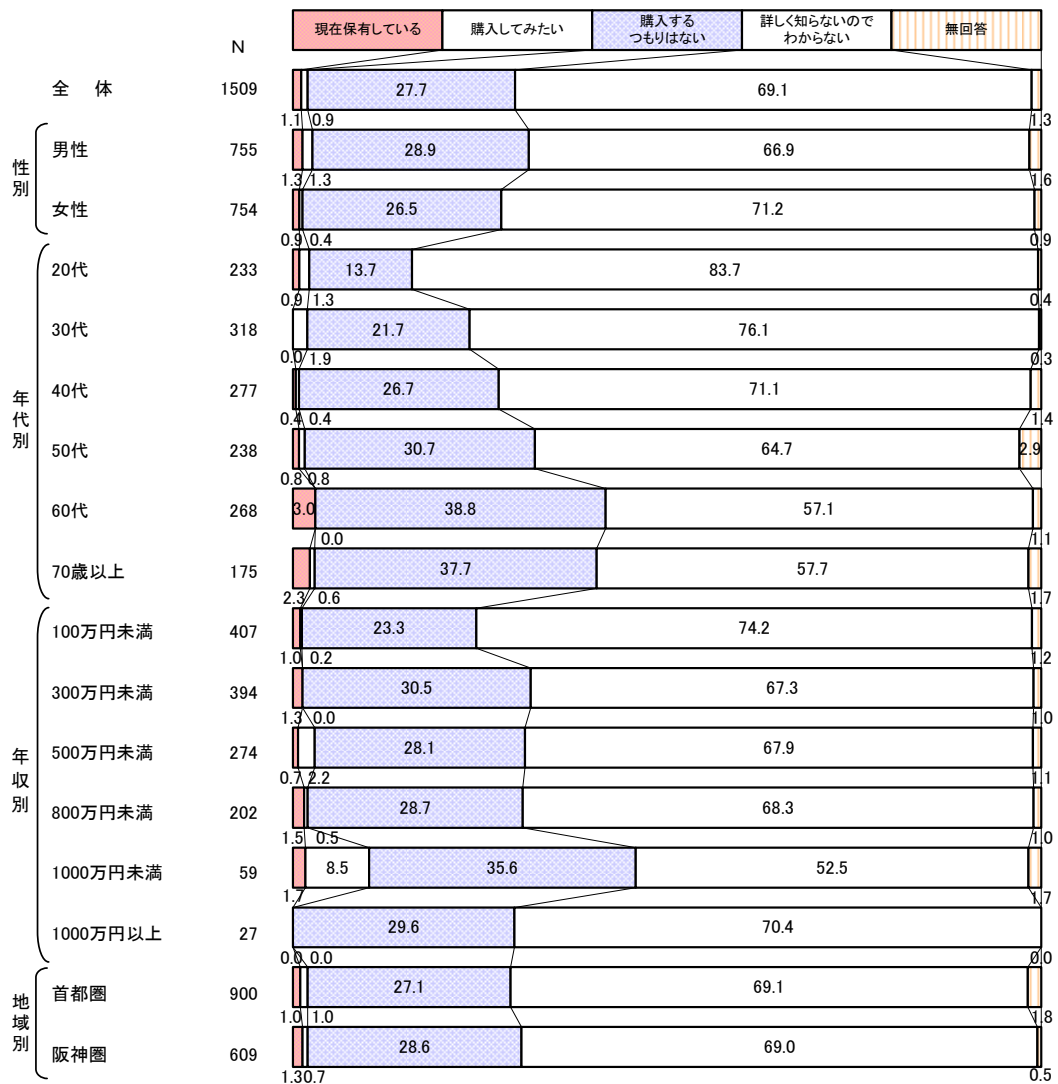
#### 問 32②【不動産投信への興味(単数回答)／時系列】



※ 平成22年より「詳しく知らないのでわからない」を追加。

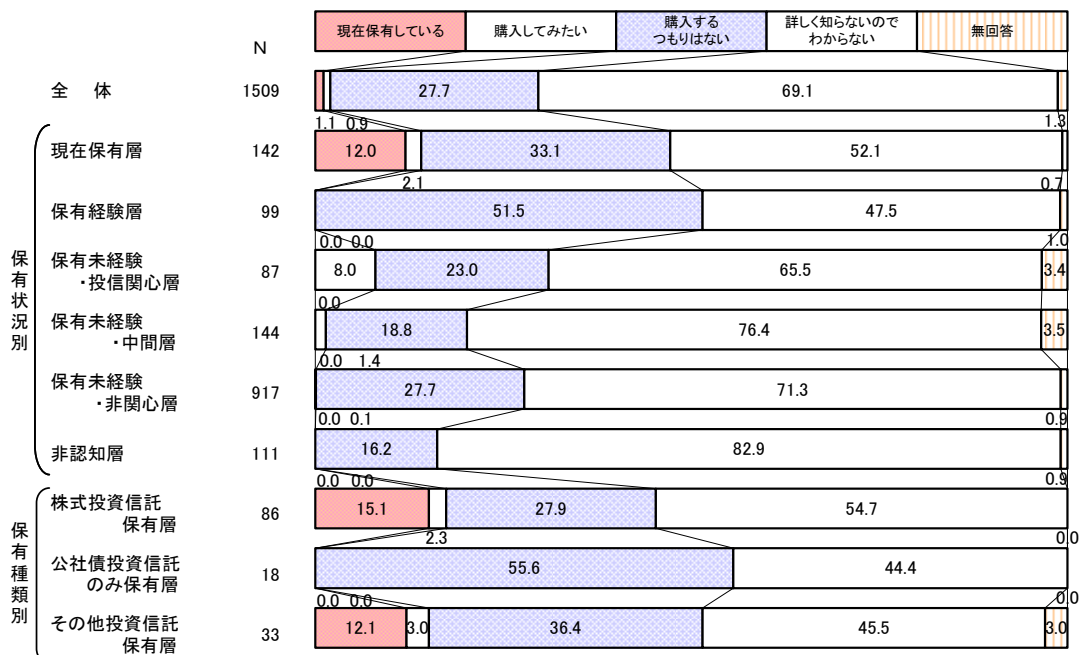
問 32②【不動産投信への興味(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 31②【不動産投信への興味(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



## 7. 投資信託をはじめとする金融商品への期待・関心状況(全体)

### (1)貯蓄の運用方針

今後の貯蓄方法について最優先して考えていることは、「元本保証がされていること」が最も高く、58.0%と過半数を占める。次いで「少額でも出し入れ自由」(10.4%)と「利回り」(10.3%)がほぼ同率で続くが、これら以外は10%に満たない。

時系列でみると、「元本保証がされていること」は微増傾向が続く一方、「利回り」は微減傾向が続き、全体的にリスクは取らない方向に動いている。また、「少額でも出し入れ自由」は前回に比べて6.5ポイント下がった。

対象者属性別にみると、性別では、女性は男性に比べて「元本保証がされていること」の優先度が高い。

年代別では、「元本保証がされていること」の優先度は20代では40.8%と低いが、年代が上がるにしたがって高くなり、50代が66.8%で最も高い。20代では「少額でも出し入れ自由」が他の年代に比べて高めである。

年収別では、「元本保証がされていること」はいずれの層でも最も高いが、800万円以上1000万円未満の層では49.2%に下がり、この層では「利回り」が25.4%と他の層に比べて高い。「少額でも出し入れ自由」は“500万円未満”の層では「利回り」を上回っているが、それ以上の年収層では低く、「利回り」や「値上がり期待」の方が高い。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層と保有未経験・投信関心層では「元本保証がされていること」の優先度は50%未満と低く、代わりに「利回り」の優先度が20%前後と高い。現在保有層では「値上がり期待」が16.9%と高い点も特徴的である。これらの層以外では「元本保証がされていること」が65%前後を占めているが、非認知層では44.1%と低い。一方、「少額でも出し入れが可能」が18.9%と高く、この項目は投資信託への関心が低いほど高い傾向となっている。

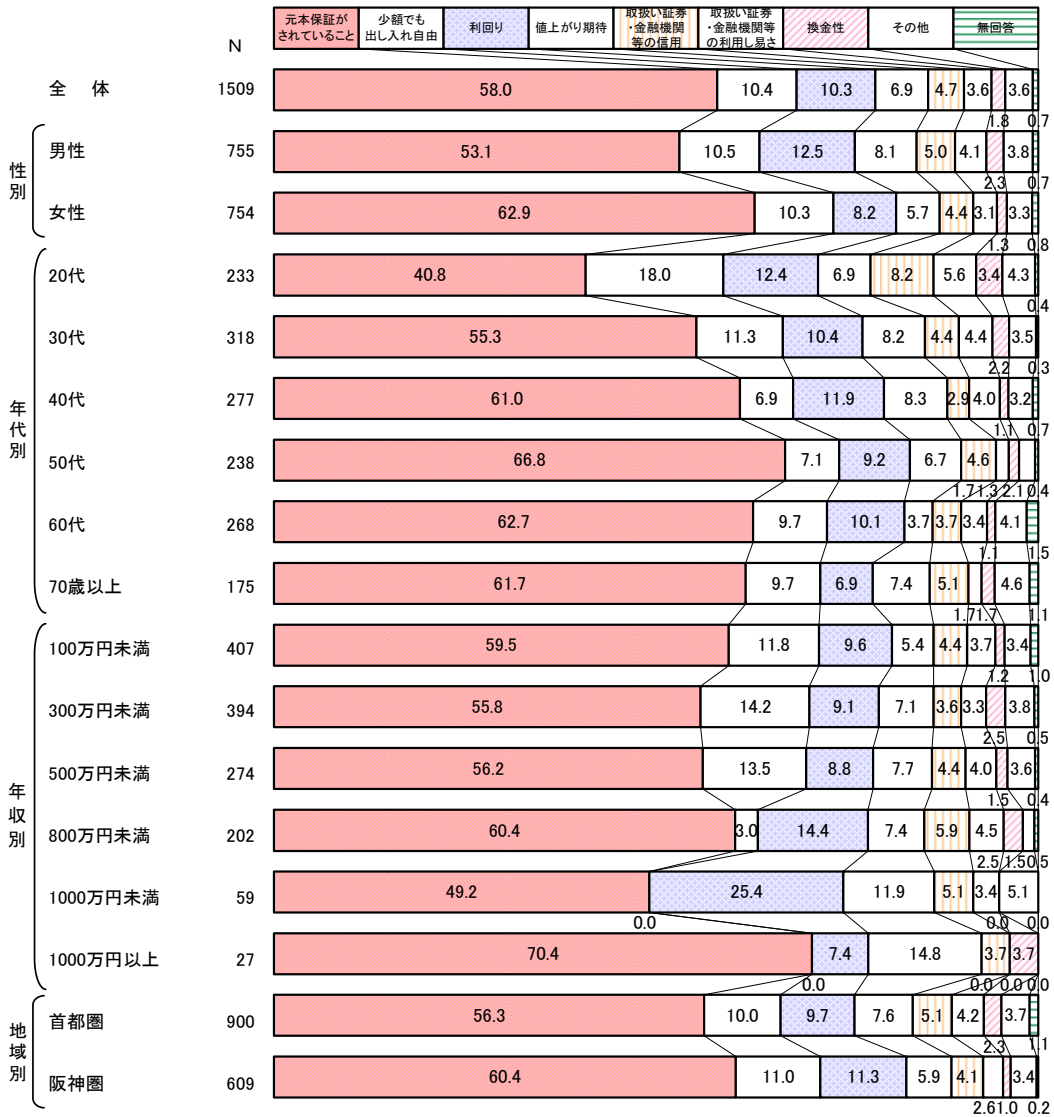
投資信託保有種類別については、「元本保証がされていること」の優先度は株式投資信託保有層では39.5%と低いのに対し、その他投資信託保有層は51.5%と高い。「利回り」や「値上がり期待」の優先度は株式投資信託保有層とその他投資信託保有層では大きな差はみられない。

問 22 【貯蓄の運用方針(単数回答)／時系列】

N		元本保証が されていること	少額でも 出し入れ自由	利回り	値上がり期待	取扱い証券 ・金融機関 等の借入	取扱い証券 ・金融機関等 の利用し易さ	換金性	その他	無回答
		平成23年	1509	58.0	10.4	10.3	6.9	4.7	3.6	3.6
平成22年	1514	56.1	16.9	10.8	5.7	4.6	2.9	1.3	1.8	0.1
平成20年	1507	54.6	14.7	12.9	6.2	4.3	3.8	1.6	2.0	0.5
平成19年	1517	52.1	17.5	14.4	6.1	4.2	2.8	1.1	1.1	0.7

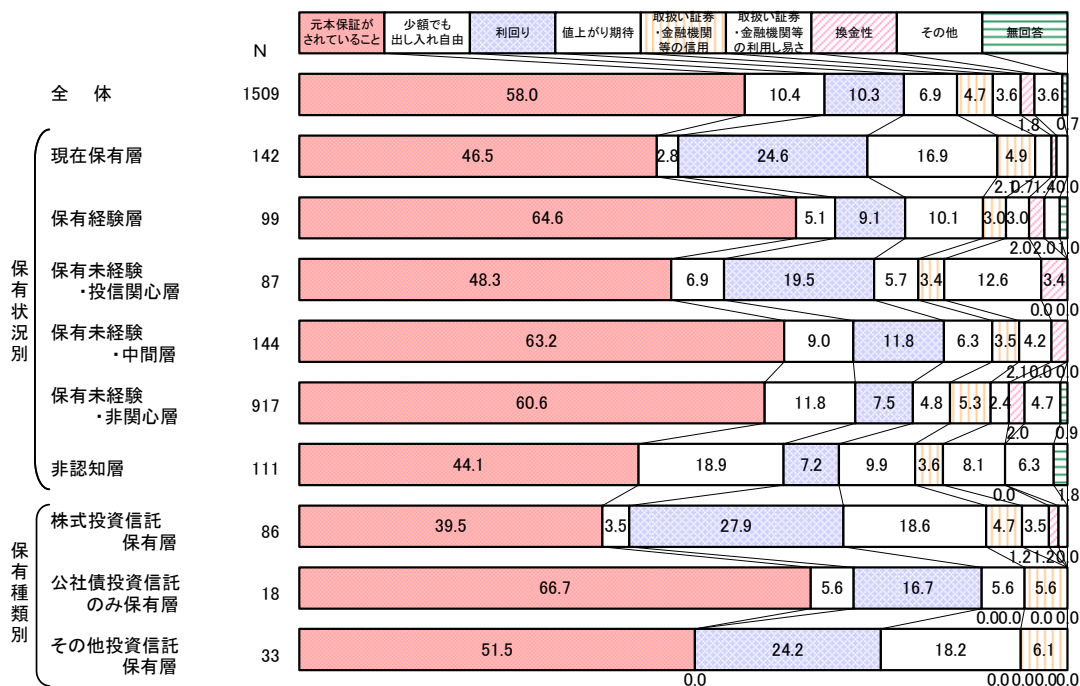
問 22 【貯蓄の運用方針(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 22 【貯蓄の運用方針(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



## (2) 現在保有している金融商品と今後購入対象として考えている金融商品

### ① 現在保有している金融商品

現在保有している金融商品は、「普通預貯金」が 83.4%で特に高く、以下、「ゆうちょ銀行の定額貯金」(39.8%)、「定期預金」(34.2%)の順に続く。「株式」(15.8%)と「貯蓄型保険」(12.5%)の保有率は10%台であるが、これら以外の保有率は10%に満たない。「国内の投資信託」は7.9%、「外国で作られた投資信託」は4.0%である。

時系列でみると、「ゆうちょ銀行の定額貯金」と「定期預金」では微減傾向が続いている。

対象者属性別にみると、性別では、「ゆうちょ銀行の定額貯金」は男性より女性の方が高いが、「株式」保有率は逆に男性の方がやや高い。

年代別では、20代は「普通預貯金」以外の商品の保有率が低く、保有商品の広がりが小さい。「普通預貯金」以外の商品の保有率は年代が上がるにつれて高くなるものが多く、高齢層ほど多様な金融商品を保有する傾向がみられる。ただし、「貯蓄型保険」は40～60代、「財形貯蓄」は30～50代の保有率が高く、後者は60代以上の保有率は低い。

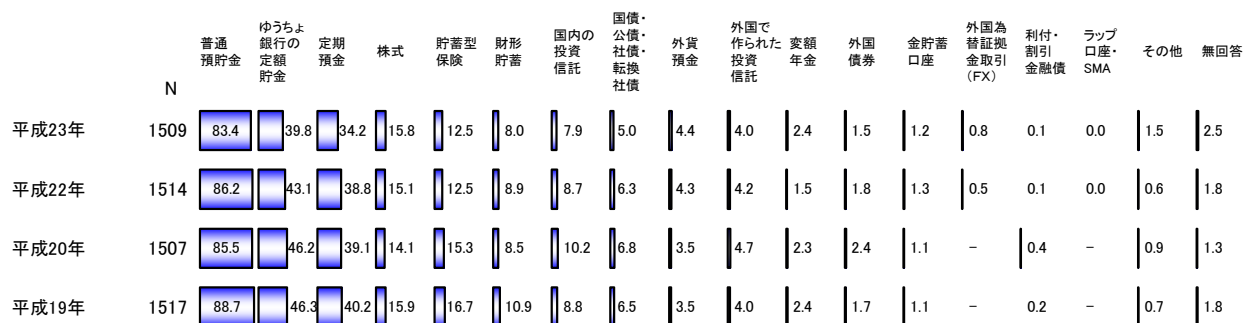
年収別にみると、「ゆうちょ銀行の定額貯金」保有率は“300万円以上800万円未満”の層では低めである。「定期預金」や「貯蓄型保険」の保有率は高年収層ほど高くなる傾向がみられ、「財形貯蓄」も年収が500万円以上の層から、「株式」は年収が800万円以上の層から急激に保有率が上がっており、年収が高いほど保有している金融商品の幅が広がる様子がうかがえる。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別にみると、現在保有層の預貯金以外の金融商品保有率では「国内の投資信託」が83.8%と高い。「株式」(50.0%)と「外国で作られた投資信託」(42.3%)も半数ほどが保有しており、「国債・公債・社債・転換社債」(21.8%)、「外貨預金」(19.0%)、「外国債券」(14.1%)も他の層に比べ保有率が高く、現在保有層は多様な種類の商品を保有している。保有経験層では、預貯金の他は「株式」(30.3%)、「貯蓄型保険」(22.2%)、「国債・公債・社債・転換社債」(16.2%)の保有率がやや高い。「定期預金」や「株式」「財形貯蓄」の保有率は保有未経験層の中では投資信託への関心が高いほど高い傾向がみられるが、関心層でも「株式」の保有率は18.4%にとどまる。非認知層は主に預貯金を中心であり、他の金融商品の保有率はごく低い。

投資信託保有種類別にみると、株式投資信託保有層は「株式」の保有率が62.8%と高く、その他投資信託保有層の39.4%を上回る。一方、その他投資信託保有層は「外国で作られた投資信託」の保有率が84.8%と、株式投資信託保有層の34.9%より高くなっている。

### 問 24 【現在保有している金融商品(重複回答)／時系列】



※ 平成22年より「ラップ口座・SMA」「外国為替証拠金取引(FX)」を追加。

問 24【現在保有している金融商品(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	普通 預貯金	ゆうちょ 銀行の 定期 貯金	定期 預金	株式	貯蓄型 保険	財形 貯蓄	国内の 投資 信託	国債・ 公債・ 社債・ 転換 社債	外貨 預金	外国で 作られた 投資 信託	変額 年金	外国 債券	金貯蓄 口座	外国為 替証拠 金取引 (FX)	利付・ 割引 金融債	ラップ 口座・ SMA	その他	無回答	
全体	1509	83.4	39.8	34.2	15.8	12.5	8.0	7.9	5.0	4.4	4.0	2.4	1.5	1.2	0.8	0.1	0.0	1.5	2.5	
性別																				
男性	755	82.4	35.2	35.1	19.1	12.1	10.9	7.7	4.1	4.8	3.0	1.9	1.2	1.3	1.2	0.1	0.0	1.3	2.8	
女性	754	84.4	44.3	33.3	12.6	12.9	5.0	8.1	5.8	4.0	4.9	2.9	1.9	1.1	0.4	0.0	0.0	1.6	2.3	
年代別																				
20代	233	90.1	25.3	17.2	2.1	4.7	2.6	1.3	0.9	0.9	0.4	0.4	0.4	0.9	0.9	0.0	0.0	0.9	2.6	
30代	318	86.8	32.4	30.5	8.5	11.6	10.7	4.4	1.6	5.3	2.5	2.5	0.6	0.3	1.3	0.0	0.0	1.6	4.1	
40代	277	82.7	41.9	34.3	16.6	16.2	12.6	7.2	4.7	6.5	4.7	2.5	1.4	2.5	1.4	0.0	0.0	1.8	2.2	
50代	238	81.1	42.9	43.7	25.2	14.7	15.1	8.8	5.0	5.5	4.6	3.4	1.7	1.7	0.4	0.0	0.0	1.7	1.7	
60代	268	81.0	47.4	45.9	22.0	16.0	2.6	12.7	9.3	4.1	6.0	3.7	2.6	0.4	0.4	0.4	0.0	1.5	1.9	
70歳以上	175	76.0	53.1	32.6	24.0	9.7	1.1	15.4	10.3	2.9	6.3	1.1	2.9	1.7	0.0	0.0	0.0	1.1	2.3	
年収別																				
100万円未満	407	86.7	43.7	30.5	10.3	11.5	4.4	6.9	4.4	2.2	3.2	2.2	1.2	1.2	0.5	0.0	0.0	1.2	1.7	
～300万円 未満	394	82.7	42.6	32.7	16.5	10.4	3.8	7.9	6.1	3.8	4.3	3.3	1.8	1.8	0.0	0.0	0.0	1.3	2.8	
～500万円 未満	274	86.1	32.8	36.1	14.2	10.9	5.1	6.9	4.7	5.5	3.6	0.7	1.5	0.7	1.1	0.0	0.0	0.7	1.8	
～800万円 未満	202	80.7	33.7	38.6	19.3	17.8	20.3	10.4	4.5	7.4	4.0	2.5	3.0	1.5	1.0	0.0	0.0	2.0	2.0	
～1000万円 未満	59	79.7	42.4	49.2	42.4	22.0	32.2	16.9	11.9	10.2	6.8	5.1	1.7	1.7	5.1	1.7	0.0	1.7	0.0	
1000万円 以上	27	92.6	40.7	48.1	40.7	29.6	25.9	14.8	3.7	11.1	7.4	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	
地域別																				
首都圏	900	84.2	38.3	33.8	17.0	14.9	10.0	8.2	5.6	4.7	3.8	3.0	1.7	1.6	0.6	0.0	0.0	1.3	2.8	
阪神圏	609	82.1	41.9	34.8	14.1	8.9	4.9	7.4	4.1	3.9	4.3	1.5	1.3	0.7	1.1	0.2	0.0	1.6	2.1	

問 24【現在保有している金融商品(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	普通 預貯金	ゆうちょ 銀行の 定期 貯金	定期 預金	株式	貯蓄型 保険	財形 貯蓄	国内の 投資 信託	国債・ 公債・ 社債・ 転換 社債	外貨 預金	外国で 作られた 投資 信託	変額 年金	外国 債券	金貯蓄 口座	外国為 替証拠 金取引 (FX)	利付・ 割引 金融債	ラップ 口座・ SMA	その他	無回答	
全体	1509	83.4	39.8	34.2	15.8	12.5	8.0	7.9	5.0	4.4	4.0	2.4	1.5	1.2	0.8	0.1	0.0	1.5	2.5	
保有状況別																				
現在保有層	142	69.0	50.0	45.1	50.0	14.1	13.4	83.8	21.8	19.0	42.3	7.7	14.1	3.5	3.5	0.7	0.0	0.7	0.0	
保有経験層	99	79.8	50.5	54.5	30.3	22.2	8.1	0.0	16.2	9.1	0.0	5.1	0.0	3.0	1.0	0.0	0.0	2.0	1.0	
保有未経験 ・投信関心層	87	79.3	43.7	50.6	18.4	18.4	14.9	0.0	2.3	3.4	0.0	3.4	0.0	3.4	4.6	0.0	0.0	2.3	2.3	
保有未経験 ・中間層	144	77.8	43.8	35.4	15.3	22.9	11.1	0.0	4.2	4.9	0.0	2.1	0.7	1.4	0.0	0.0	0.0	1.4	2.8	
保有未経験 ・非関心層	917	87.1	36.8	30.5	10.7	10.1	6.4	0.0	2.1	2.2	0.0	1.5	0.2	0.4	0.2	0.0	0.0	1.4	2.9	
非認知層	111	82.9	32.4	17.1	0.9	3.6	4.5	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	1.8	3.6	
保有種類別																				
株式投資信託 保有層	86	69.8	50.0	46.5	62.8	15.1	12.8	100.0	29.1	24.4	34.9	10.5	18.6	3.5	4.7	1.2	0.0	1.2	0.0	
公社債投資信託 のみ保有層	18	66.7	61.1	44.4	11.1	11.1	16.7	100.0	16.7	5.6	11.1	0.0	0.0	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他投資信託 保有層	33	66.7	42.4	45.5	39.4	15.2	12.1	33.3	6.1	12.1	84.8	6.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

## ②保有金融商品総額

現在の保有金融商品総額については、「100万円未満」が35.5%、「100万～300万円未満」が20.6%であり、「300万円未満」が56.1%と半数を超える。一方、「1000万円以上」は8.9%に過ぎない。平均保有額は426.3万円である。

時系列でみると、前回に比べて分布に大きな変化はみられないが、平均保有額でみると、下降傾向が続いている。

対象者属性別にみると、性別では、分布に大きな違いはみられないが、男性の方が「3000万円以上」の高額保有率がわずかに高く、平均保有額は男性の方が女性より高くなっている。

年代別では、年代が上がるにつれて平均保有額が上がる傾向がみられ、20代は平均が110.6万円に過ぎないが、60代以上では700万円を超える。各年代間の差をみると、30～40代の間は約100万円と伸びが小さめだが、40代と50代の間では約200万円と大きく伸びている。60代と70歳以上ではほぼ同額で増加していない。

年収別では、当然のことながら年収が高くなるほど平均保有額は高くなっている。平均保有額の各層の間の差をみると、800万円未満までの層では70～100万円と差が小さい(中でも300万円未満と500万円未満では差は20万円と小さい)が、それ以上の層では一気に300万円、400万円と大幅に増えている。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では保有金融商品総額の低い層から高い層まで分布が広がっているものの、「1000万円以上」が30%近くを占め、平均保有額も879.3万円と高い。保有経験層も平均保有額は837.5万円であり、現在保有層と大きな差はみられない。保有未経験層は投資信託への関心が高いほど平均保有額が高い傾向がみられるが、関心層でも平均は500万円に届いていない。非認知層は平均保有額が最も低く、150万円に満たない。

投資信託保有種類別では、平均保有額は株式投資信託保有層が972.9万円であり、その他投資信託保有層(829.7万円)に比べて高い。

### 問 25 【保有金融商品総額(単数回答)／時系列】

	N	100万円未満	～300万円未満	～500万円未満	～800万円未満	～1000万円未満	～1500万円未満	～2000万円未満	～3000万円未満	3000万円以上	無回答	平均値(万円)
平成23年	1509	35.5	20.6	10.6	8.9	5.0	3.1	2.9	1.8	1.7	10.5	426.3
平成22年	1514	35.1	20.1	12.0	8.7	4.8	4.2	2.1	2.0	2.0	9.0	439.9
平成20年	1507	31.1	20.7	11.9	14.8	3.8	2.7	2.2	1.8		10.9	(471.3)
平成19年	1517	32.5	20.6	12.2	13.6	4.8	3.4	2.2	1.8		9.0	(475.6)
										2.2	2.1	2.6

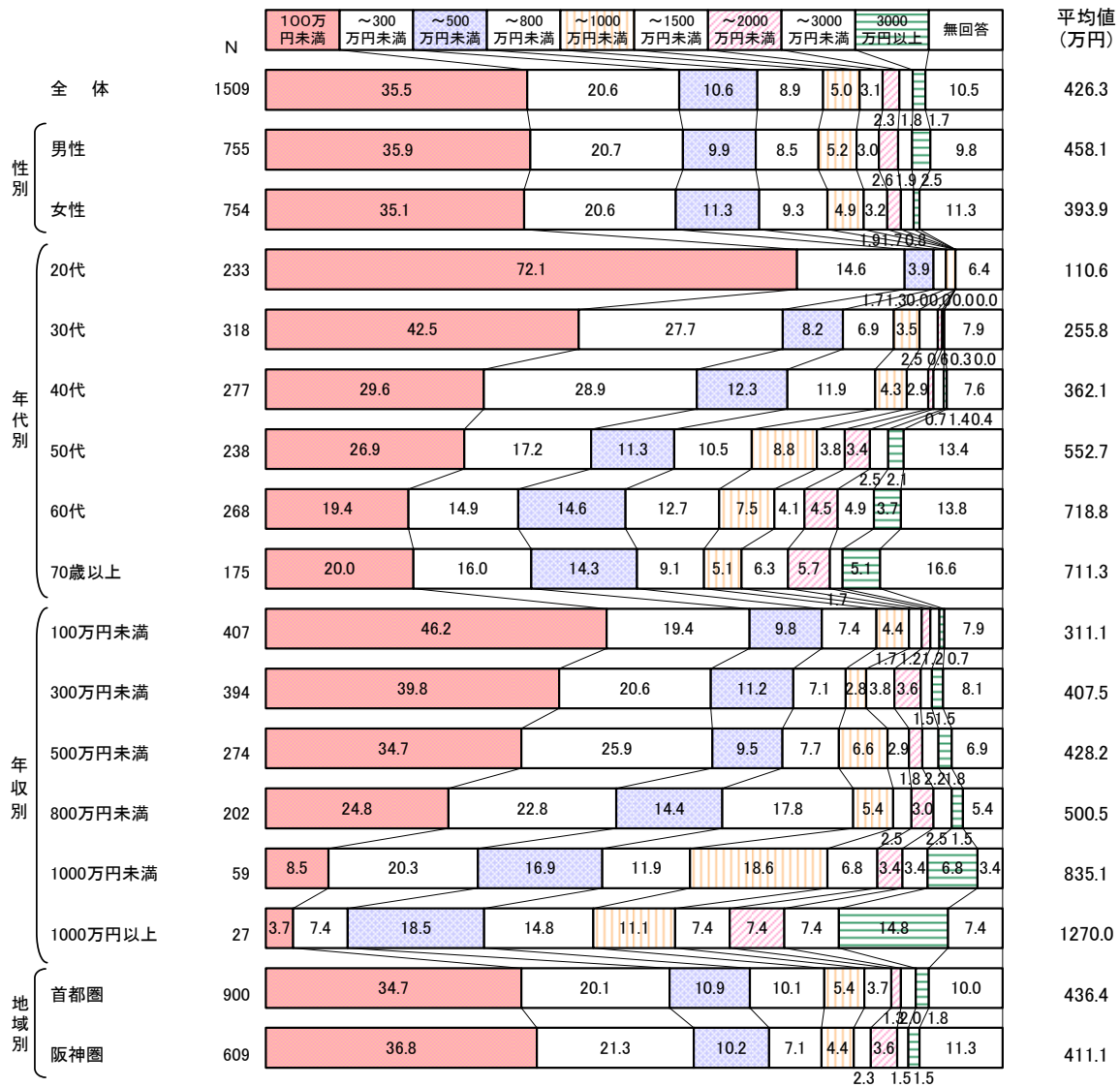
※ 平成22年より「～800万円未満」を追加。

( )は、平均値算出のための選択肢の値の与え方が今回、前回とは異なるため参考値。



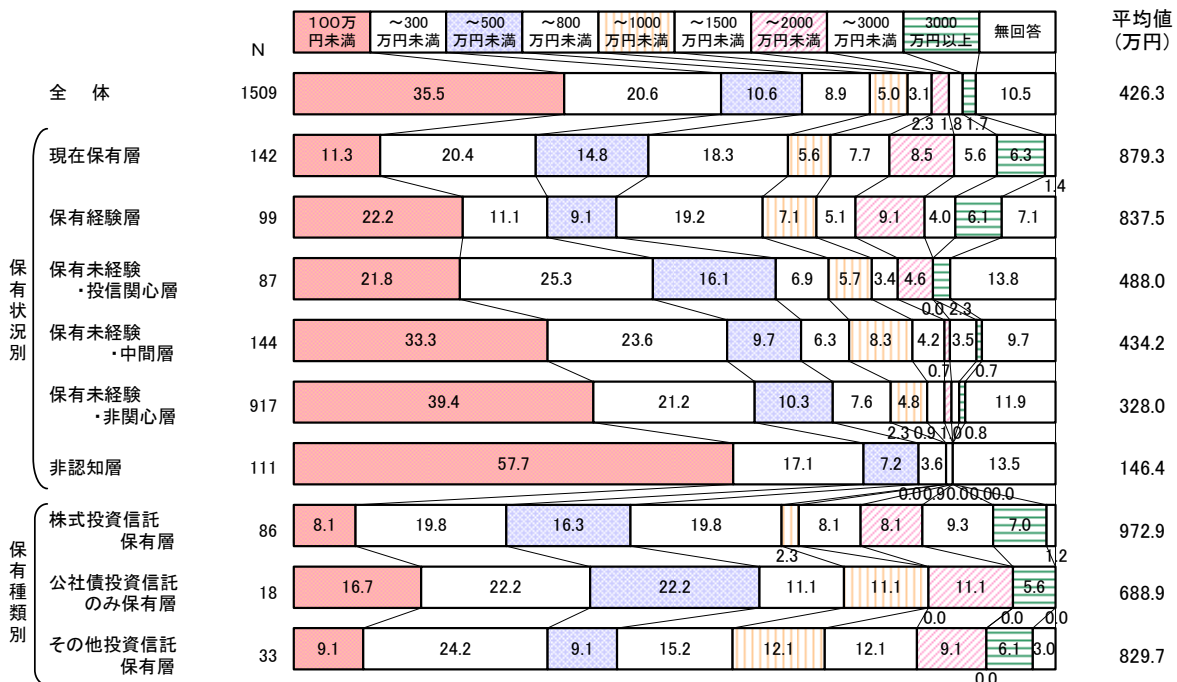
問 25 【保有金融商品総額(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 25 【保有金融商品総額(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



③今後購入対象として考えている金融商品

今後購入対象として考えている金融商品(追加投資、増額を含む)は、「普通預貯金」が48.4%で特に高く、次いで「ゆうちょ銀行の定額貯金」(32.4%)と「定期預金」(32.1%)がほぼ同率で高い。以下、「株式」(11.5%)の他は10%に満たず、「国内の投資信託」は3.7%、「外国で作られた投資信託」は2.5%にとどまる。

時系列でみると、「普通預貯金」「ゆうちょ銀行の定額貯金」「定期預金」ともに前回に比べて約10ポイント下がっており、後者2商品は平成20年以降、下降傾向となっている。これら以外の商品では大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、「普通預貯金」と「ゆうちょ銀行の定額貯金」は女性の方がやや高いが、「株式」への関心は男性の方が高い。

年代別では、20代はそれ以上の年代に比べて「普通預貯金」がやや高く、「ゆうちょ銀行の定額貯金」「定期預金」では低めであり、全般的に関心範囲は狭い。「定期預金」は70歳以上でも低い。「財形貯蓄」と「貯蓄型保険」は40代を中心とした層で、「外貨預金」「国債・公債・社債・転換社債」等も30~50代を中心に比較的高く、中年層では金融商品への関心の広がりがみられる。

年収別では、「普通預貯金」は年収が上がるほどやや低下し、800万円以上1000万円未満の層では33.9%と低い。一方、「株式」「財形貯蓄」「外貨貯金」は年収が高くなるほど関心度が高くなる傾向があり、高年収層では多様な金融商品への関心が高い。

地域別では、関心度に大きな差がみられる商品はない。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層は多様な金融商品への関心が高く、「国内の投資信託」は20.4%、「外国で作られた投資信託」も16.9%と高い。保有未経験・投信関心層も多様な金融商品への関心が高く、「株式」は42.5%と現在保有層の25.4%より高い。また、「国内の投資信託」(17.2%)や「外国で作られた投資信託」(10.3%)への関心度も現在保有層に次いで高く、保有経験層を上回っている。「国債・公債・社債・転換社債」はこの3つの層とも15%前後で並んでいる。「外国為替証拠金取引(FX)」は保有未経験・投信関心層が最も高い。保有経験層は現在保有層に比べて「普通預貯金」や「定期預金」は高いが、国内・外国ともに「投資信託」への関心度は低く、関心領域は貯蓄性商品が中心となっている。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は、その他投資信託保有層に比べて「株式」「国債・公債・社債・転換社債」がやや高く、また、「国内の投資信託」「外国で作られた投資信託」ともに関心が20%前後みられる。

問 26 【今後購入対象として考えている金融商品(重複回答)／時系列】

	N	普通 預貯金	ゆうちょ 銀行の 定額 貯金	定期 預金	株式	財形 貯蓄	外貨 預金	貯蓄型 保険	国債・ 公債・ 社債・ 転換 社債	国内の 投資 信託	外国で 作られ た投 資信 託	外国為 替証拠 金取引 (FX)	外国 債券	金貯蓄 口座	変額 年金	利付・ 割引 金融債	ラップ 口座・ SMA	その他	無回答
平成23年	1509	48.4	32.4	32.1	11.5	5.6	5.5	5.5	5.1	3.7	2.5	1.8	1.7	1.3	0.9	0.4	0.0	5.7	5.6
平成22年	1514	60.3	42.6	41.9	13.1	7.1	5.4	7.9	6.5	4.0	1.8	1.2	1.5	1.9	0.9	0.4	0.1	3.0	3.3
平成20年	1507	-	49.8	49.2	12.1	8.6	6.7	9.0	8.0	6.0	3.0	-	2.7	1.9	1.7	0.5	-	2.3	6.3
平成19年	1517	-	46.7	47.1	15.0	9.0	7.1	10.1	8.5	7.5	3.4	-	1.8	1.9	1.7	0.3	-	2.6	5.6

※ 平成22年より「普通預貯金」「外国為替証拠金取引(FX)」「ラップ口座・SMA」を追加。

問 26 【今後購入対象として考えている金融商品(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

		N	普通 預貯金	ゆうちょ 銀行の 定期 貯金	定期 預金	株式	財形 貯蓄	外貨 預金	貯蓄型 保険	国債・ 公債・ 社債・ 転換 社債	国内の 投資 信託	外国で 作られた 投資 信託	外国為 替証拠 金取引 (FX)	外国 債券	金貯蓄 口座	変額 年金	利付・ 割引 金融債	ラップ 口座・ SMA	その他	無回答
性別	全体	1509	48.4	32.4	32.1	11.5	5.6	5.5	5.5	5.1	3.7	2.5	1.8	1.7	1.3	0.9	0.4	0.0	5.7	5.6
	男性	755	45.3	29.8	32.3	17.4	6.5	7.3	5.8	6.0	4.5	2.4	2.8	2.0	2.1	1.1	0.7	0.0	5.2	5.6
	女性	754	51.5	35.0	32.0	5.6	4.8	3.7	5.2	4.2	2.9	2.7	0.8	1.3	0.5	0.7	0.1	0.0	6.2	5.6
年代別	20代	233	55.4	25.3	27.0	9.9	3.9	3.4	2.1	3.0	1.7	1.3	3.4	0.4	0.4	0.9	0.4	0.0	6.4	3.9
	30代	318	46.9	27.7	32.7	11.6	8.8	8.2	6.0	3.1	4.1	2.5	2.2	0.6	1.9	1.6	0.0	0.0	7.2	5.0
	40代	277	48.4	36.1	35.7	9.7	10.1	7.6	6.9	6.9	4.3	3.2	2.9	2.5	2.2	0.7	0.7	0.0	2.9	3.6
	50代	238	48.7	35.3	36.1	14.3	5.9	6.3	8.8	7.1	5.0	1.7	0.4	2.1	1.3	0.8	1.3	0.0	4.2	4.2
	60代	268	42.9	34.7	34.3	10.8	1.1	3.4	4.9	5.2	3.0	3.0	1.1	1.9	1.5	0.7	0.0	0.0	8.6	6.3
	70歳以上	175	49.7	37.1	23.4	13.1	1.7	2.3	3.4	5.7	4.0	3.4	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	12.6
	100万円未満	407	53.1	37.1	30.5	5.9	4.4	2.7	3.7	3.2	2.5	2.2	1.7	1.5	0.5	0.2	0.0	0.0	7.4	4.2
～300万円 未満	394	50.5	34.0	32.2	10.2	3.8	3.0	5.8	5.1	3.3	2.0	0.8	0.8	1.5	0.8	0.3	0.0	4.3	6.3	
～500万円 未満	274	45.3	27.4	33.2	15.7	4.4	6.9	6.9	6.6	3.6	2.6	4.0	3.3	1.5	1.1	0.4	0.0	5.1	5.5	
～800万円 未満	202	49.5	29.7	37.1	15.8	10.9	9.4	6.4	7.9	6.4	3.0	1.0	1.0	3.0	2.0	1.0	0.0	3.5	1.5	
～1000万円 未満	59	33.9	33.9	40.7	23.7	20.3	18.6	8.5	6.8	8.5	8.5	5.1	5.1	1.7	0.0	0.0	0.0	6.8	0.0	
1000万円 以上	27	48.1	29.6	37.0	37.0	3.7	11.1	7.4	11.1	11.1	3.7	0.0	0.0	3.7	3.7	3.7	0.0	3.7	0.0	
地域別	首都圏	900	46.9	31.3	31.8	12.9	6.3	6.7	6.7	6.1	4.2	2.4	1.9	1.6	1.6	1.3	0.4	0.0	6.3	5.6
	阪神圏	609	50.6	34.0	32.7	9.4	4.6	3.8	3.8	3.6	3.0	2.6	1.6	1.8	1.0	0.2	0.3	0.0	4.8	5.6

問 26 【今後購入対象として考えている金融商品(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

		N	普通 預貯金	ゆうちょ 銀行の 定期 貯金	定期 預金	株式	財形 貯蓄	外貨 預金	貯蓄型 保険	国債・ 公債・ 社債・ 転換 社債	国内の 投資 信託	外国で 作られた 投資 信託	外国為 替証拠 金取引 (FX)	外国 債券	金貯蓄 口座	変額 年金	利付・ 割引 金融債	ラップ 口座・ SMA	その他	無回答
保有状況別	全体	1509	48.4	32.4	32.1	11.5	5.6	5.5	5.5	5.1	3.7	2.5	1.8	1.7	1.3	0.9	0.4	0.0	5.7	5.6
	現在保有層	142	23.9	24.6	23.9	25.4	4.2	4.8	4.9	4.1	20.4	16.9	1.4	9.9	2.8	0.7	1.4	0.0	4.9	6.3
	保有経験層	99	41.4	33.3	41.4	22.2	4.0	6.1	6.1	15.2	6.1	4.0	4.0	0.0	3.0	4.0	1.0	0.0	5.1	4.0
	保有未経験 ・投信関心層	87	36.8	24.1	34.5	42.5	8.0	11.5	6.9	14.9	17.2	10.3	11.5	5.7	4.6	1.1	3.4	0.0	2.3	0.0
	保有未経験 ・中間層	144	38.9	41.7	42.4	13.2	8.3	13.9	10.4	6.9	0.7	0.0	0.7	0.7	2.8	0.0	0.0	0.0	1.4	4.2
	保有未経験 ・非関心層	917	54.7	33.6	31.7	5.9	5.6	2.3	4.9	2.0	0.5	0.1	0.9	0.4	0.4	0.7	0.0	0.0	7.2	6.0
	非認知層	111	54.1	26.1	22.5	4.5	4.5	2.7	3.6	0.9	0.0	0.0	1.8	0.9	0.9	0.9	0.0	0.0	3.6	9.0
保有種類別	株式投資信託 保有層	86	22.1	18.6	25.6	30.2	3.5	17.4	2.3	19.8	23.3	18.6	2.3	9.3	2.3	0.0	2.3	0.0	5.8	7.0
	公社債投資信託 のみ保有層	18	27.8	44.4	11.1	22.2	5.6	16.7	5.6	11.1	16.7	5.6	0.0	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0
	その他投資信託 保有層	33	27.3	24.2	27.3	18.2	6.1	9.1	12.1	3.0	15.2	21.2	0.0	12.1	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	6.1

### (3) 希望する投資信託商品と購入方法(投資信託検討者)

#### ① 今後購入を考える投資信託の商品

今後の取引対象として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対し、今後投資信託への新規投資または追加投資(増額)を考える場合の商品内容について尋ねたところ、「安定した利回りを目標とするもの(値下がりのリスクは少々なら良い)」が55.3%と半数を占めた。次いで「極力元本が安全であるもの(利回りは小さくても良い)」(22.4%)が高い。「比較的高い分配が期待できるもの(値下がりのリスクがあっても良い)」(11.8%)と「値上がりの期待が持てるもの(値下がりのリスクがあっても良い)」(9.2%)は少数派である。

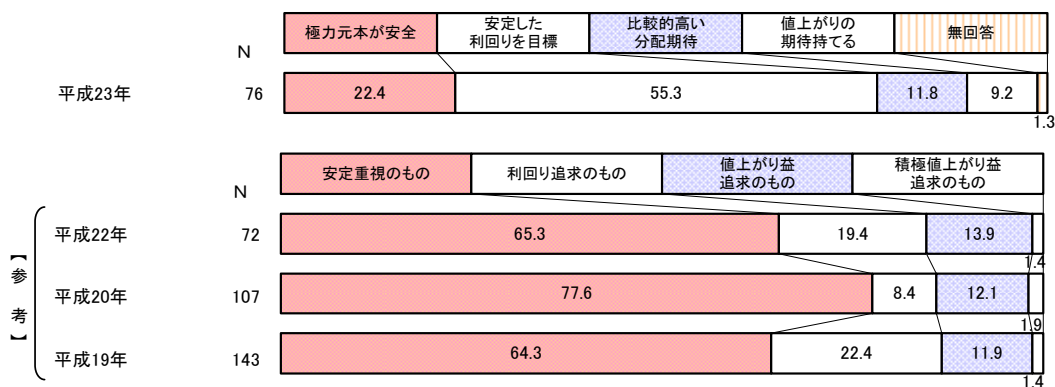
時系列では今回項目を大きく変更したため、前回までのデータは参考までに提示するにとどめる。

対象者属性別にみると、性別では大きな差はみられない。

地域別では、首都圏より阪神圏の方が「極力元本が安全であるもの」を希望する率が高く、「値上がり期待の持てるもの」は低めである。

#### 問 26-1 【今後購入を考える投資信託の商品内容(単数回答)】

／時系列－投資信託検討者ベース】



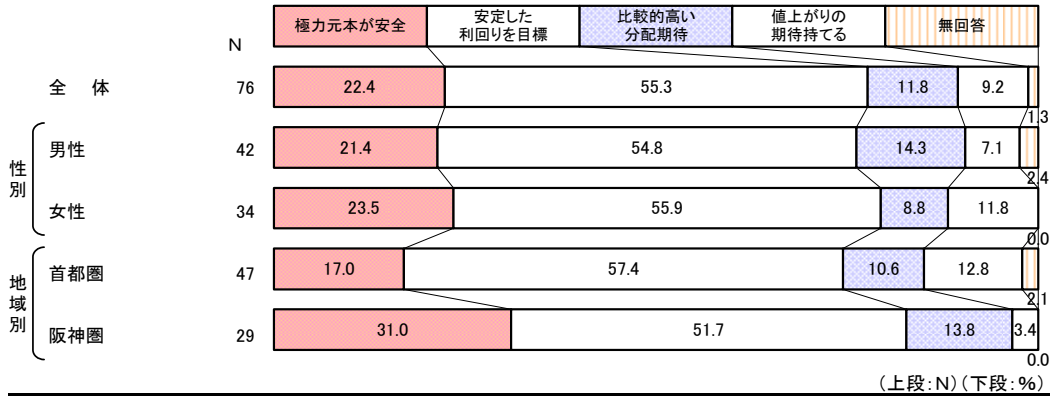
※ 今回の選択肢の内容は下記のとおり

1. 極力元本が安全であるもの(利回りは小さくても良い)
2. 安定した利回りを目標とするもの(値下がりのリスクは少々なら良い)
3. 比較的高い分配が期待できるもの(値下がりのリスクがあっても良い)
4. 値上がりの期待が持てるもの(値下がりのリスクがあっても良い)

問 26-1 【今後購入を考える投資信託の商品内容(単数回答)

／対象者属性別－投資信託検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



	全体	極力元本が安全	安定した利回りを目標	比較的高い分配期待	値上がりの期待持てる	無回答	
全体	76 100.0	17 22.4	42 55.3	9 11.8	7 9.2	1 1.3	
年代別	20代	6 100.0	1 16.7	1 16.7	3 50.0	1 16.7	-
	30代	16 100.0	2 12.5	11 68.8	1 6.3	2 12.5	-
	40代	15 100.0	3 20.0	7 46.7	2 13.3	3 20.0	-
	50代	13 100.0	2 15.4	8 61.5	1 7.7	1 7.7	1 7.7
	60代	14 100.0	4 28.6	9 64.3	1 7.1	-	-
	70歳以上	12 100.0	5 41.7	6 50.0	1 8.3	-	-
	年収別	100万円未満	14 100.0	6 42.9	5 35.7	1 7.1	2 14.3
300万円未満		19 100.0	2 10.5	14 73.7	1 5.3	2 10.5	-
500万円未満		16 100.0	5 31.3	7 43.8	2 12.5	2 12.5	-
800万円未満		13 100.0	1 7.7	10 76.9	2 15.4	-	-
1000万円未満		8 100.0	2 25.0	4 50.0	1 12.5	1 12.5	-
1000万円以上		3 100.0	1 33.3	-	2 66.7	-	-

問 26-1 【今後購入を考える投資信託の商品内容(単数回答)

／保有状況・保有種類別－投資信託検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全体	極力元本が安全	安定した利回りを目標	比較的高い分配期待	値上がりの期待持てる	無回答	
全体	76 100.0	17 22.4	42 55.3	9 11.8	7 9.2	1 1.3	
保有状況別	現在保有層	44 100.0	10 22.7	23 52.3	7 15.9	4 9.1	-
	保有経験層	7 100.0	3 42.9	3 42.9	-	1 14.3	-
	保有未経験・投信関心層	18 100.0	2 11.1	13 72.2	2 11.1	1 5.6	-
	保有未経験・非関心層	6 100.0	2 33.3	3 50.0	-	-	1 16.7
保有種類別	株式投資信託保有層	29 100.0	5 17.2	16 55.2	4 13.8	4 13.8	-
	公社債投資信託のみ保有層	3 100.0	2 66.7	1 33.3	-	-	-
	その他投資信託保有層	11 100.0	3 27.3	5 45.5	3 27.3	-	-

## ②投資信託の購入意向商品(投資信託検討者)

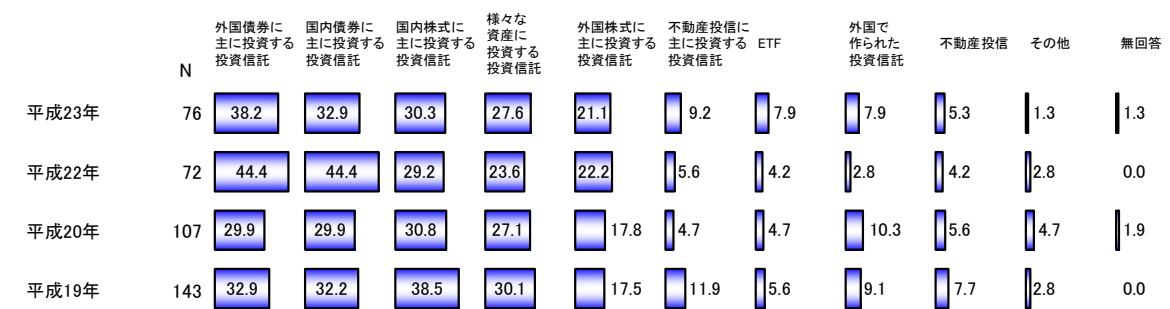
今後の取引対象として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対し、今後投資信託への新規投資または追加投資(増額)を考える場合の商品の種類を尋ねたところ、「外国債券に主に投資する投資信託」(38.2%)「国内債券に主に投資する投資信託」(32.9%)、「国内株式に主に投資する投資信託」(30.3%)、「様々な資産に投資する投資信託」(27.6%)、「外国株式に主に投資する投資信託」(21.1%)となっている。これら以外の商品の購入意向は10%未満にとどまる。

時系列でみると、「国内債券に主に投資する投資信託」が前回に比べて低下している。

対象者属性別でみると、性別では、「国内債券に主に投資する投資信託」と「国内株式に主に投資する投資信託」は男性の方が、「様々な資産に投資する投資信託」は女性の方が高い傾向にある。

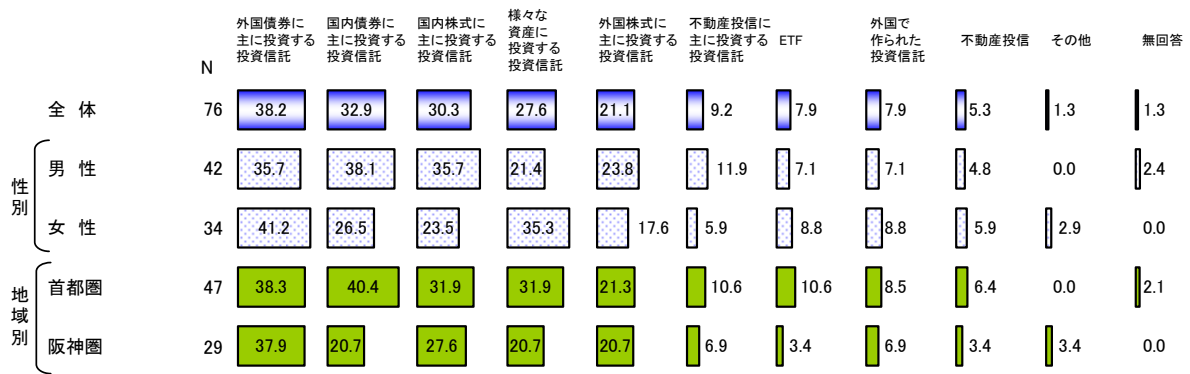
地域別では、「国内債券に主に投資する投資信託」「様々な資産に投資する投資信託」の購入意向率は首都圏の方が阪神圏よりやや高い。

### 問 26-2【投資信託の購入意向商品(重複回答)／時系列－投資信託検討者ベース】



問 26-2【投資信託の購入意向商品(重複回答)／対象者属性別—投資信託検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(上段:N)(下段:%)

	全体	外国債券に主に投資する投資信託	国内債券に主に投資する投資信託	国内株式に主に投資する投資信託	様々な資産に投資する投資信託	外国株式に主に投資する投資信託	不動産投資に主に投資する投資信託	ETF	外国で作られた投資信託	不動産投資	その他	無回答
全体	76	29	25	23	21	16	7	6	6	4	1	1
	100.0	38.2	32.9	30.3	27.6	21.1	9.2	7.9	7.9	5.3	1.3	1.3
年代別	20代	6	3	2	1	2	3	3	1	-	-	-
		100.0	50.0	33.3	16.7	33.3	50.0	50.0	-	16.7	-	-
	30代	16	7	5	7	4	5	-	2	2	-	-
		100.0	43.8	31.3	43.8	25.0	31.3	-	12.5	12.5	-	-
	40代	15	7	5	7	3	3	1	2	-	1	-
		100.0	46.7	33.3	46.7	20.0	20.0	6.7	13.3	-	6.7	-
	50代	13	3	5	4	3	2	2	1	1	1	1
	100.0	23.1	38.5	30.8	23.1	15.4	15.4	7.7	7.7	7.7	-	7.7
60代	14	6	4	3	4	1	1	-	2	1	1	-
	100.0	42.9	28.6	21.4	28.6	7.1	7.1	-	14.3	7.1	7.1	-
70歳以上	12	3	4	1	5	2	-	1	-	1	-	-
	100.0	25.0	33.3	8.3	41.7	16.7	-	8.3	-	8.3	-	-
年収別	100万円未満	14	4	2	5	4	5	-	1	1	1	-
		100.0	28.6	14.3	35.7	28.6	35.7	-	7.1	7.1	7.1	-
	300万円未満	19	10	7	5	5	2	2	1	1	2	-
		100.0	52.6	36.8	26.3	26.3	10.5	10.5	5.3	5.3	10.5	-
	500万円未満	16	7	5	3	5	3	1	2	2	-	-
		100.0	43.8	31.3	18.8	31.3	18.8	6.3	12.5	12.5	-	-
800万円未満	13	4	7	6	5	2	1	-	2	-	-	
	100.0	30.8	53.8	46.2	38.5	15.4	7.7	-	15.4	-	-	
1000万円未満	8	2	2	2	1	2	2	1	-	1	-	
	100.0	25.0	25.0	25.0	12.5	25.0	25.0	12.5	-	12.5	-	
1000万円以上	3	1	2	2	1	1	1	-	-	-	-	
	100.0	33.3	66.7	66.7	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	

問 26-2【投資信託の購入意向商品(重複回答)／保有状況・保有種類別

—投資信託検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全体	外国債券に主に投資する投資信託	国内債券に主に投資する投資信託	国内株式に主に投資する投資信託	様々な資産に投資する投資信託	外国株式に主に投資する投資信託	不動産投資に主に投資する投資信託	ETF	外国で作られた投資信託	不動産投資	その他	無回答
全体	76	29	25	23	21	16	7	6	6	4	1	1
	100.0	38.2	32.9	30.3	27.6	21.1	9.2	7.9	7.9	5.3	1.3	1.3
保有状況別	現在保有層	44	22	11	11	13	9	3	5	4	3	-
		100.0	50.0	25.0	25.0	29.5	20.5	6.8	11.4	9.1	6.8	-
	保有経験層	7	-	2	2	1	2	-	-	-	1	1
		100.0	-	28.6	28.6	14.3	28.6	-	-	-	14.3	14.3
	保有未経験・投資関心層	18	5	11	8	7	4	2	1	1	-	-
	100.0	27.8	61.1	44.4	38.9	22.2	11.1	5.6	5.6	-	-	
保有未経験・非関心層	6	1	1	2	-	1	1	-	1	-	-	
	100.0	16.7	16.7	33.3	-	16.7	16.7	-	16.7	-	-	
保有種類別	株式投資信託保有層	29	14	8	10	10	8	2	2	-	2	-
		100.0	48.3	27.6	34.5	34.5	27.6	6.9	6.9	-	6.9	-
	公社債投資信託のみ保有層	3	-	2	1	3	-	1	1	-	-	-
		100.0	-	66.7	33.3	100.0	-	33.3	33.3	-	-	-
その他投資信託保有層	11	7	-	-	-	1	-	2	3	1	-	
	100.0	63.6	-	-	-	9.1	-	18.2	27.3	9.1	-	

③投資信託の情報取得に利用したい方法(投資信託検討者)

今後の取引対象として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対し、投資信託についての情報を得るのに利用したい方法を尋ねたところ、「証券会社等で説明を受け資料請求」(59.2%)と「インターネットで調べる」(50.0%)がともに高く、次いで「新聞・テレビ等を見たり聞いたりする」(28.9%)が高いが、他の方法は10%台以下と低い。

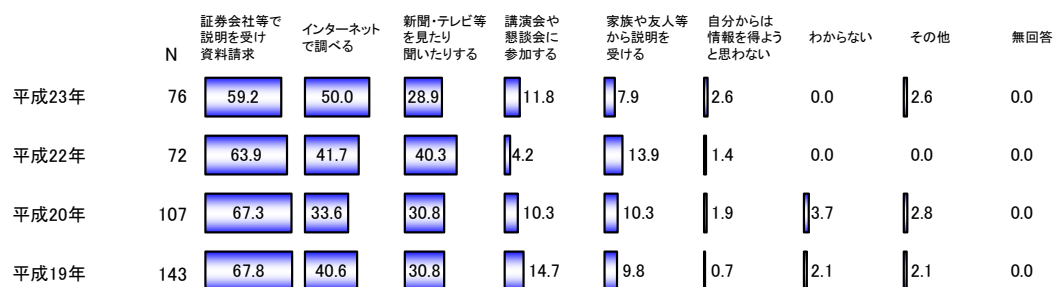
時系列でみると、「インターネットで調べる」は平成20年以降、上昇傾向が続いている。一方、「新聞・テレビ等を見たり聞いたりする」は前回より低下し、前々回と同水準に戻っている。

対象者属性別にみると、性別では、「証券会社等で説明を受け資料請求」は男性より女性の方が高いが、「インターネットで調べる」は男性の方が高い。男性では「インターネットで調べる」が「証券会社等で説明を受け資料請求」を上回り、トップとなっている。

地域別では、N数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、特に大きな差はみられない。

問 26-3【投資信託の情報取得に利用したい方法(重複回答)】

／時系列－投資信託検討者ベース】

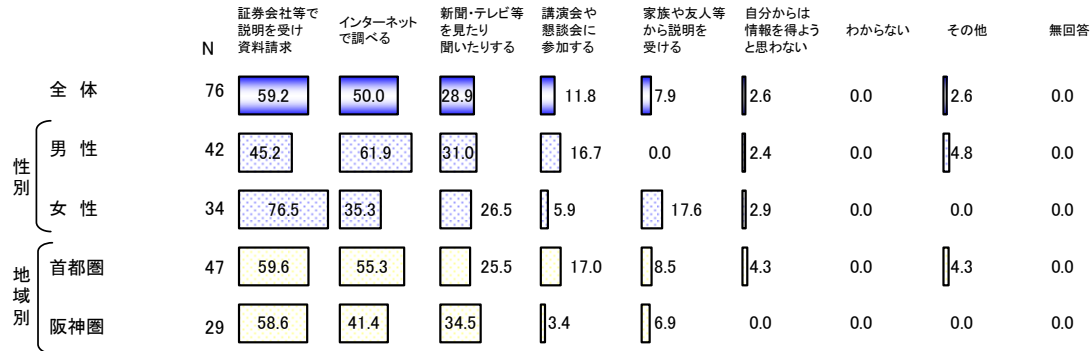




問 26-3 【投資信託の情報取得に利用したい方法(重複回答)】

／対象者属性別－投資信託検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(上段:N)(下段:%)

	全体	証券会社等で説明を受け資料請求	インターネットで調べる	新聞・テレビ等を見たり聞いたりする	講演会や懇談会に参加する	家族や友人等から説明を受ける	自分からは情報を得ようと思わない	わからない	その他	無回答
全体	76 100.0	45 59.2	38 50.0	22 28.9	9 11.8	6 7.9	2 2.6	-	2 2.6	-
年代別	20代	6 100.0	2 33.3	4 66.7	-	4 66.7	-	-	-	1 16.7
	30代	16 100.0	11 68.8	10 62.5	5 31.3	1 6.3	1 6.3	-	-	1 6.3
	40代	15 100.0	8 53.3	10 66.7	6 40.0	-	-	-	-	-
	50代	13 100.0	6 46.2	9 69.2	3 23.1	3 23.1	2 15.4	-	-	-
	60代	14 100.0	11 78.6	4 28.6	2 14.3	1 7.1	2 14.3	1 7.1	-	-
	70歳以上	12 100.0	7 58.3	1 8.3	6 50.0	-	1 8.3	1 8.3	-	-
	年収別	100万円未満	14 100.0	9 64.3	5 35.7	7 50.0	2 14.3	2 14.3	-	-
300万円未満		19 100.0	13 68.4	8 42.1	6 31.6	1 5.3	2 10.5	-	-	1 5.3
500万円未満		16 100.0	11 68.8	7 43.8	3 18.8	3 18.8	1 6.3	1 6.3	-	1 6.3
800万円未満		13 100.0	6 46.2	9 69.2	2 15.4	1 7.7	1 7.7	-	-	-
1000万円未満		8 100.0	3 37.5	6 75.0	3 37.5	1 12.5	-	-	-	-
1000万円以上		3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	-	-	1 33.3	-	-

問 26-3 【投資信託の情報取得に利用したい方法(重複回答)】

／保有状況・保有種類別－投資信託検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全体	証券会社等で説明を受け資料請求	インターネットで調べる	新聞・テレビ等を見たり聞いたりする	講演会や懇談会に参加する	家族や友人等から説明を受ける	自分からは情報を得ようと思わない	わからない	その他	無回答
全体	76 100.0	45 59.2	38 50.0	22 28.9	9 11.8	6 7.9	2 2.6	-	2 2.6	-
保有状況別	現在保有層	44 100.0	28 63.6	20 45.5	12 27.3	1 2.3	5 11.4	1 2.3	-	-
	保有経験層	7 100.0	2 28.6	3 42.9	3 42.9	-	-	1 14.3	-	-
	保有未経験・投信関心層	18 100.0	10 55.6	11 61.1	6 33.3	6 33.3	1 5.6	-	-	1 5.6
	保有未経験・非関心層	6 100.0	4 66.7	3 50.0	1 16.7	2 33.3	-	-	-	1 16.7
保有種類別	株式投資信託保有層	29 100.0	16 55.2	15 51.7	11 37.9	-	5 17.2	-	-	-
	公社債投資信託のみ保有層	3 100.0	1 33.3	2 66.7	1 33.3	-	-	1 33.3	-	-
	その他投資信託保有層	11 100.0	10 90.9	3 27.3	-	1 9.1	-	-	-	-

④投資信託の保有期間(投資信託検討者)

今後の取引対象として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対し、投資信託を購入する場合の保有期間を尋ねたところ、「特に期間は決めない」が27.6%で最も高く、「3年以上5年未満」(23.7%)と「2年以上3年未満」(21.1%)も20%以上で並んでいる。「1年未満」は2.6%のみである。

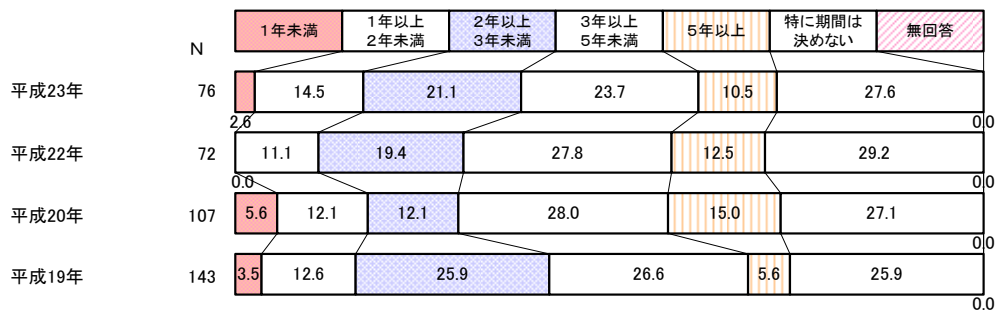
時系列でも、特に大きな変化はみられない。

対象者属性別にみても、性別では、特に顕著な差はみられない。

地域別では、N数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、特に大きな差はみられない。

問 26-4 【今後投資信託を購入する場合の希望保有期間(単数回答) /時系列

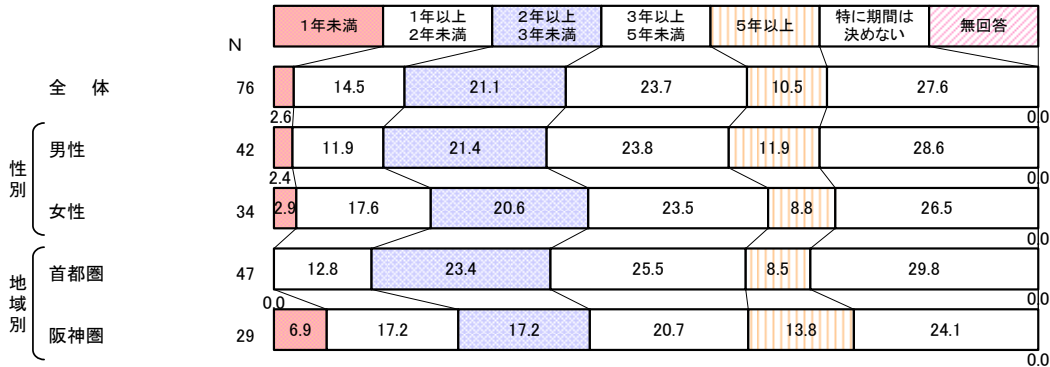
—投資信託検討者ベース】



問 26-4 【今後投資信託を購入する場合の希望保有期間(単数回答)

／対象者属性別－投資信託検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(上段:N)(下段:%)

	全体	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	特に期間は 決めない	無回答
全体	76 100.0	2 2.6	11 14.5	16 21.1	18 23.7	8 10.5	21 27.6	-
年代別	20代	6 100.0	-	2 33.3	-	2 33.3	-	2 33.3
	30代	16 100.0	-	1 6.3	1 6.3	5 31.3	3 18.8	6 37.5
	40代	15 100.0	-	2 13.3	3 20.0	2 13.3	2 13.3	6 40.0
	50代	13 100.0	1 7.7	1 7.7	2 15.4	4 30.8	2 15.4	3 23.1
	60代	14 100.0	1 7.1	2 14.3	6 42.9	2 14.3	1 7.1	2 14.3
	70歳以上	12 100.0	-	3 25.0	4 33.3	3 25.0	-	2 16.7
	年収別	100万円未満	14 100.0	1 7.1	1 7.1	1 7.1	5 35.7	2 14.3
300万円未満		19 100.0	1 5.3	3 15.8	9 47.4	2 10.5	-	4 21.1
500万円未満		16 100.0	-	3 18.8	1 6.3	4 25.0	2 12.5	6 37.5
800万円未満		13 100.0	-	2 15.4	2 15.4	3 23.1	2 15.4	4 30.8
1000万円未満		8 100.0	-	1 12.5	1 12.5	3 37.5	2 25.0	1 12.5
1000万円以上		3 100.0	-	-	2 66.7	1 33.3	-	-

問 26-4 【今後投資信託を購入する場合の希望保有期間(単数回答)

／保有状況・保有種類別－投資信託検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全体	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	特に期間は 決めない	無回答
全体	76 100.0	2 2.6	11 14.5	16 21.1	18 23.7	8 10.5	21 27.6	-
保有状況別	現在保有層	44 100.0	1 2.3	4 9.1	14 31.8	8 18.2	5 11.4	12 27.3
	保有経験層	7 100.0	-	4 57.1	1 14.3	1 14.3	-	1 14.3
	保有未経験 ・投信関心層	18 100.0	1 5.6	2 11.1	-	7 38.9	3 16.7	5 27.8
	保有未経験 ・非関心層	6 100.0	-	1 16.7	-	2 33.3	-	3 50.0
	株式投資信託 保有層	29 100.0	1 3.4	3 10.3	11 37.9	4 13.8	3 10.3	7 24.1
保有種類別	公社債投資信託 のみ保有層	3 100.0	-	-	-	1 33.3	1 33.3	1 33.3
	その他投資信託 保有層	11 100.0	-	1 9.1	2 18.2	3 27.3	1 9.1	4 36.4

#### (4) 資産運用に関する話題の登場頻度

資産運用について話題になる頻度としては、「よく話題になる」は2.0%のみ、「たまに話題になる」は19.9%であり、これらを合わせると“話題になる率”は21.9%である。一方、「話題になることはない」は68.5%と高く、「資産運用の話題は他人に話したくない」という人も9.5%みられる。

時系列で見ると、前回に比べて「たまに話題になる」比率が5.2ポイント減少し、「話題になることはない」比率が5.6ポイント上昇している。

対象者属性別にみると、性別では資産運用が“話題になる率”は男性の方が女性よりやや高い。

年代別では、“話題になる率”は20代が最も低く、50代を中心とした層で高い。「資産運用の話は他人に話したくない」は年代が上がるほど高くなる傾向がみられ、70歳以上では20.6%を占める。

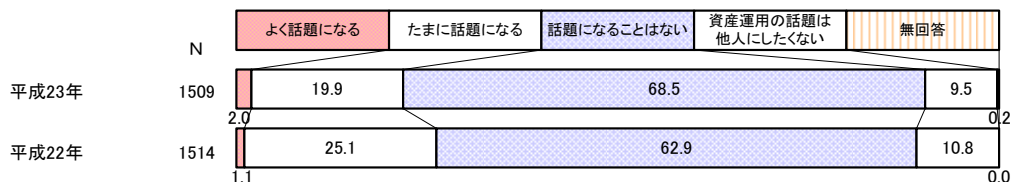
年収別では、年収が高い層ほど“話題になる率”が高くなる傾向がみられ、800万円以上1000万円未満の層では半数近くを占める。

地域別では、特に差はみられない。

投資信託保有状況別で見ると、資産運用が“話題になる率”は保有未経験・投信関心層では62.0%と最も高く、現在保有層の45.0%を上回っている。保有経験層は31.3%で保有未経験・中間層の27.8%と同水準であるが、保有未経験・非関心層では14.6%、非認知層では5.4%と低い。

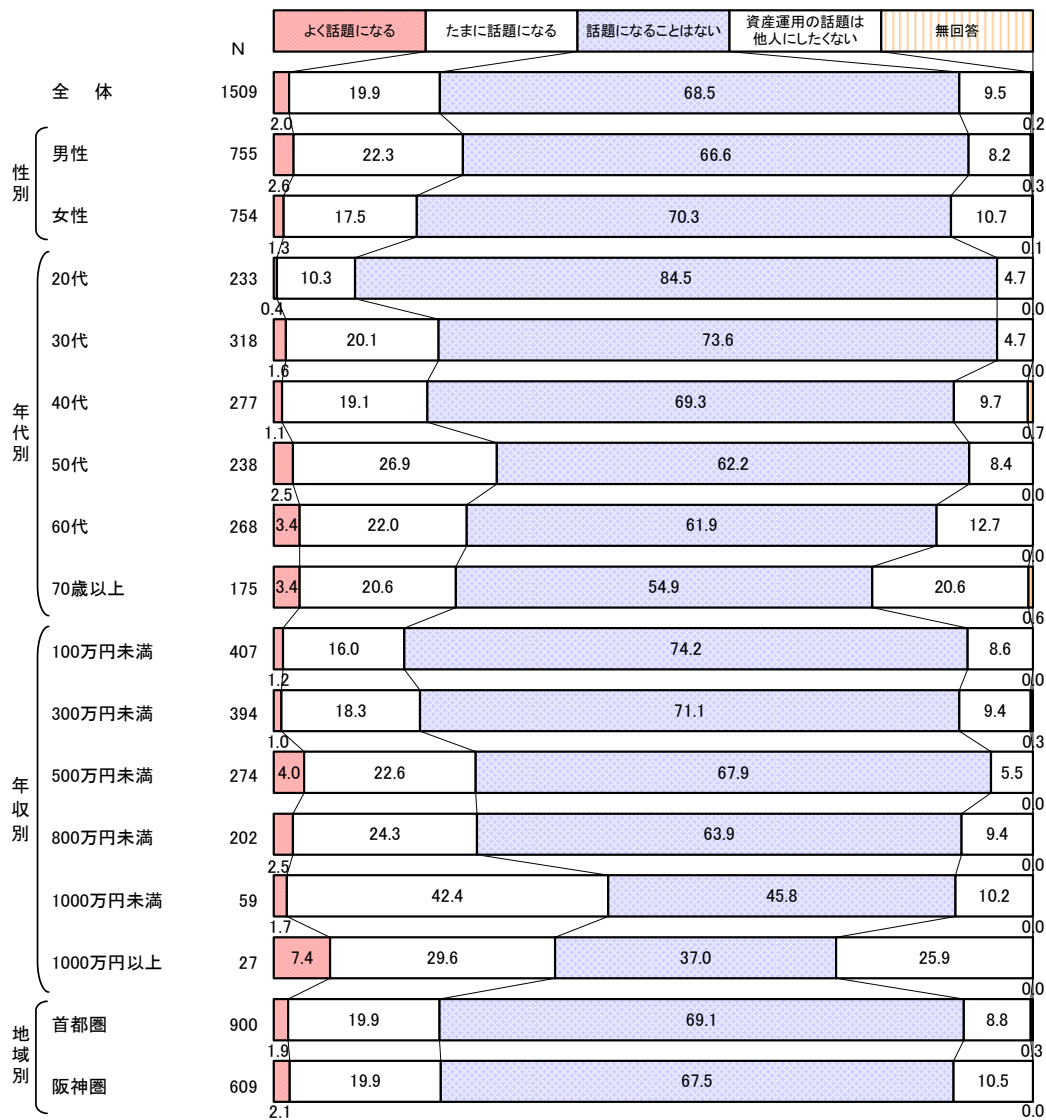
投資信託保有種類別については、N数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、大きな差はみられない。

問 23【資産運用について友人・知人、会社等で話題になるか(単数回答)／時系列】



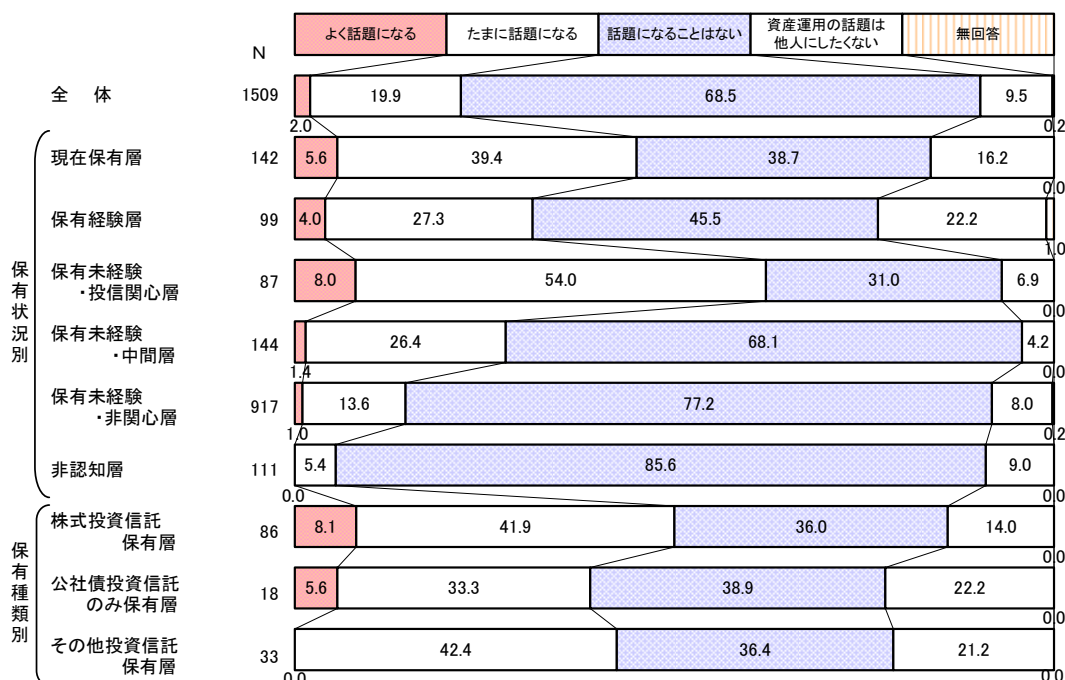
問 23【資産運用について友人・知人、会社等で話題になるか(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



問 23【資産運用について友人・知人、会社等で話題になるか／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



## (5) 金融商品や投資に関する情報源

現在、金融商品や投資に関する情報を得ているのは、「新聞」(27.0%)と「テレビ」(26.1%)が並んで高く、次いで「インターネット」が20.2%で続く。これら以外の情報源は10%未満と低い。なお、「特に情報は得ていない」が50.1%を占めており、残りのほぼ半数は金融商品や投資に関して何かしらの情報収集している。

時系列でみると、「新聞」の利用率は、前回に比べて5.0ポイント低下した。

対象者属性別にみると、性別では、「新聞」や「インターネット」の利用率は男性の方が高い。

年代別では、「新聞」利用率は高年齢層ほど高くなる傾向がみられる。「インターネット」と「テレビ」利用率は30代で30%を超えて最も高く、「インターネット」は50代以下の年代でも20%以上が利用しているが、60代以上では10%未満と低い。30代以下の若年層の金融関連の主な情報源は「テレビ」と「インターネット」、60代以上の高年齢層では「新聞」と「テレビ」といえる。なお、「特に情報は得ていない」は20代で61.4%と特に高い。

年収別では、「新聞」と「インターネット」の利用率はともに高年収層ほど高くなり、中でも後者は800万円以上1000万円未満の層で50.8%にのぼる。一方、「特に情報は得ていない」率は年収が高い層ほど低下する傾向がみられる。

地域別では大きな差はみられない。

投資信託保有状況別でみると、保有未経験・投信関心層では、「インターネット」が47.1%で、各層の中で最も高くなっている。また、この層では、「特に情報は得ていない」率も現在保有層や保有未経験層と同様に20%前後と低くなっている。

投資信託保有種類別については、N数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、株式投資信託保有層では「新聞」利用率が他の層よりやや高く、「特に情報は得ていない」率はやや低い。

### 問 35 【金融商品や投資に関する情報源(重複回答)／時系列】

	N	新聞	テレビ	インターネット	ロコミ	マネー系の雑誌	FPなどの専門家	ラジオ	セミナーや講演会	その他の雑誌	その他	特に情報は得ていない	無回答
平成23年	1509	27.0	26.1	20.2	6.2	3.4	2.4	1.3	1.0	0.7	2.4	50.1	0.3
平成22年	1514	32.0	30.0	17.1	6.0	3.3	1.9	1.5	1.5	0.8	2.3	48.2	0.1

問 35 【金融商品や投資に関する情報源(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	新聞	テレビ	インターネット	ロコミ	マネー系の雑誌	FPなどの専門家	ラジオ	セミナーや講演会	その他の雑誌	その他	特に情報は得ていない	無回答
全体	1509	27.0	26.1	20.2	6.2	3.4	2.4	1.3	1.0	0.7	2.4	50.1	0.3
性別													
男性	755	32.3	23.6	27.7	6.0	4.8	2.4	1.3	1.2	0.9	1.3	47.3	0.4
女性	754	21.8	28.6	12.7	6.5	2.1	2.4	1.2	0.8	0.5	3.4	52.9	0.1
年代別													
20代	233	13.7	25.8	21.5	4.3	2.6	0.4	0.4	0.4	0.0	1.7	61.4	0.0
30代	318	24.5	31.4	30.8	6.9	3.8	3.5	0.9	1.9	0.0	2.2	43.4	0.3
40代	277	27.1	24.9	23.1	7.6	3.2	2.5	1.8	0.0	1.4	1.8	46.9	0.0
50代	238	31.5	24.8	24.8	8.4	6.7	2.9	0.4	0.4	1.7	3.4	45.4	0.0
60代	268	32.8	25.4	9.7	3.4	1.9	1.9	1.9	0.7	0.7	3.0	54.5	0.0
70歳以上	175	34.3	21.7	4.6	6.9	2.3	2.9	2.3	2.9	0.6	2.3	52.0	1.7
年収別													
100万円未満	407	17.9	29.0	15.0	5.2	1.2	2.5	1.0	0.0	0.2	2.7	56.0	0.0
～300万円未満	394	25.6	25.4	15.0	7.1	1.8	1.8	0.8	1.3	0.5	3.3	52.3	1.0
～500万円未満	274	31.0	25.9	23.7	6.6	4.0	2.6	2.6	1.5	1.8	2.2	48.2	0.0
～800万円未満	202	33.7	23.3	31.7	7.4	6.9	3.0	0.0	1.0	1.0	2.0	42.1	0.0
～1000万円未満	59	42.4	15.3	50.8	5.1	11.9	5.1	1.7	1.7	1.7	0.0	28.8	0.0
1000万円以上	27	48.1	25.9	33.3	7.4	7.4	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	29.6	0.0
地域別													
首都圏	900	27.0	24.7	21.2	6.0	4.2	2.1	0.8	1.3	1.1	2.6	51.0	0.3
阪神圏	609	27.1	28.2	18.7	6.6	2.3	2.8	2.0	0.5	0.2	2.1	48.8	0.2

問 35 【金融商品や投資に関する情報源(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	新聞	テレビ	インターネット	ロコミ	マネー系の雑誌	FPなどの専門家	ラジオ	セミナーや講演会	その他の雑誌	その他	特に情報は得ていない	無回答
全体	1509	27.0	26.1	20.2	6.2	3.4	2.4	1.3	1.0	0.7	2.4	50.1	0.3
保有状況別													
現在保有層	142	40.1	23.2	35.2	6.3	9.2	13.4	0.7	4.2	0.7	8.5	26.8	0.0
保有経験層	99	50.5	32.3	17.2	9.1	8.1	6.1	3.0	1.0	0.0	2.0	29.3	1.0
保有未経験・投信関心層	87	49.4	27.6	47.1	10.3	11.5	1.1	1.1	2.3	0.0	1.1	23.0	0.0
保有未経験・中間層	144	32.6	29.9	27.8	6.9	3.5	2.1	1.4	1.4	2.8	3.5	41.7	0.0
保有未経験・非関心層	917	21.4	25.6	15.8	5.9	1.6	0.8	1.1	0.4	0.7	1.5	57.9	0.3
非認知層	111	10.8	22.5	9.9	2.7	0.9	0.0	1.8	0.0	0.0	0.9	66.7	0.0
保有種類別													
株式投資信託保有層	86	47.7	22.1	37.2	7.0	11.6	16.3	0.0	4.7	1.2	9.3	23.3	0.0
公社債投資信託のみ保有層	18	22.2	11.1	27.8	0.0	11.1	0.0	0.0	5.6	0.0	5.6	38.9	0.0
その他投資信託保有層	33	27.3	24.2	36.4	6.1	3.0	12.1	3.0	3.0	0.0	9.1	30.3	0.0

## (6) 最近の景気等を踏まえた資産運用やリスクについての考え方

最近の景気を踏まえた資産運用やリスクへの考え方としては、「リターンが少なくても元本保証があるものを選びたい」が27.4%で最も高い。これ以外の意見への同意率は10%台以下と低く、「今が株式や投資信託購入のチャンスだと思う」と考える人は4.9%のみである。また、「特にない・わからない」が59.6%を占め、明確な方針を持っている人は半数に満たない。

対象者属性別にみると、性別では、大きな違いがみられる項目はない。

年代別では、20代は他の年代層に比べて「特にない・わからない」が高く、他の年代では20%以上ある「リターンが少なくても元本保証があるものを選びたい」ですらも14.6%と低いが、40代ではこれが37.5%とやや高い。

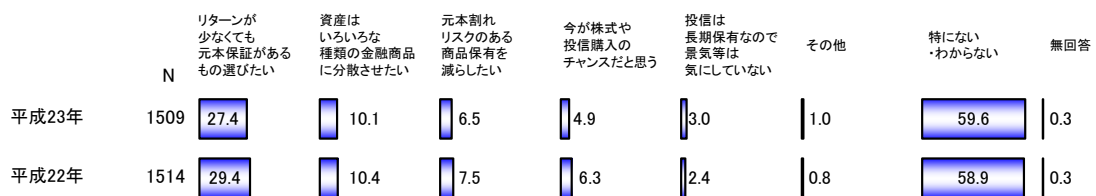
年収別では、「リターンが少なくても元本保証があるものを選びたい」は500万円以上800万円未満の層でやや高く、「資産はいろいろな種類の金融商品に分散させたい」は800万円以上1000万円未満の層で高い。「特にない・わからない」は年収の低い層ほど高い傾向がみられ、特に方針を持っていない人が多いといえる。

地域別では大きな差はみられない。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層は「元本割れリスクのある商品の保有を減らしたい」や「投信は長期保有なので景気等は気にしていない」が他の層より高いのが特徴といえる。保有未経験・投信関心層では「資産はいろいろな種類の金融商品に分散させたい」が現在保有層と同程度で高く、「特にない・わからない」も現在保有層と同様に低い。保有未経験でも投信関心層では、現在保有層に次いで積極的な方針を持っていることがわかる。保有経験層は「リターンが少なくても元本保証があるものを選びたい」が最も高いが、それ以外の考え方は現在保有層や保有未経験・投信関心層より低く、ここでもリスクを取りたくない姿勢が見受けられる。なお、「特にない・わからない」率は未経験層では投信への関心が低いほど高い傾向がみられ、非認知層では91.0%と大多数が運用やリスクの方針を持っていない。

投資信託保有種類別については、N数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、その他投資信託保有層は他層に比べて「資産はいろいろな種類の金融商品に分散させたい」と考える率が低い。

### 問 33 【最近の景気等を踏まえた資産運用やリスクについての考え方(重複回答)／時系列】





問 33 【最近の景気等を踏まえた資産運用やリスクについての考え方(重複回答)

／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	リターンが 少なくとも 元本保証がある ものを選びたい	資産は いろいろな 種類の金融商品 に分散させたい	元本割れ リスクのある 商品保有を 減らしたい	今が株式や 投信購入の チャンスだと思う	投信は 長期保有なので 景気等は 気にしていない	その他	特にな い・わ からない	無回答
全体	1509	27.4	10.1	6.5	4.9	3.0	1.0	59.6	0.3
性別									
男性	755	28.2	11.4	7.3	7.0	3.4	1.2	56.2	0.3
女性	754	26.7	8.8	5.7	2.8	2.5	0.8	63.0	0.4
年代別									
20代	233	14.6	4.3	4.3	5.2	0.9	0.9	77.3	0.0
30代	318	24.8	11.3	2.5	5.0	4.4	0.9	60.1	0.3
40代	277	37.5	11.6	6.5	4.3	0.7	1.1	50.5	0.4
50代	238	29.4	11.8	9.7	5.5	3.4	0.8	53.4	0.0
60代	268	30.6	9.0	9.3	4.5	4.5	1.1	58.6	0.4
70歳以上	175	25.7	12.6	8.0	5.1	4.0	1.1	59.4	1.1
年収別									
100万円未満	407	23.6	5.7	4.4	3.2	1.0	0.5	69.0	0.5
~300万円 未満	394	26.6	7.4	6.9	4.3	2.8	1.3	60.7	0.5
~500万円 未満	274	26.3	15.0	7.7	7.3	3.6	0.7	57.7	0.0
~800万円 未満	202	44.1	12.9	7.9	5.4	6.4	1.0	43.1	0.0
~1000万円 未満	59	32.2	27.1	11.9	8.5	6.8	1.7	37.3	0.0
1000万円 以上	27	29.6	14.8	11.1	14.8	3.7	3.7	40.7	0.0
地域別									
首都圏	900	28.6	11.9	6.2	5.3	3.1	1.3	57.3	0.4
阪神圏	609	25.8	7.4	6.9	4.3	2.8	0.5	62.9	0.2

問 33 【最近の景気等を踏まえた資産運用やリスクについての考え方(重複回答)

／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	リターンが 少なくとも 元本保証がある ものを選びたい	資産は いろいろな 種類の金融商品 に分散させたい	元本割れ リスクのある 商品保有を 減らしたい	今が株式や 投信購入の チャンスだと思う	投信は 長期保有なので 景気等は 気にしていない	その他	特にな い・わ からない	無回答
全体	1509	27.4	10.1	6.5	4.9	3.0	1.0	59.6	0.3
保有状況別									
現在保有層	142	40.1	34.5	27.5	16.2	15.5	4.2	16.9	0.7
保有経験層	99	49.5	17.2	9.1	8.1	5.1	1.0	30.3	1.0
保有未経験 ・投信関心層	87	41.4	39.1	9.2	12.6	9.2	0.0	20.7	0.0
保有未経験 ・中間層	144	34.0	14.6	5.6	4.2	2.1	0.0	52.8	0.0
保有未経験 ・非関心層	917	23.3	3.2	3.5	2.6	0.8	0.9	70.2	0.3
非認知層	111	6.3	0.9	1.8	1.8	0.0	0.0	91.0	0.0
保有種類別									
株式投資信託 保有層	86	37.2	40.7	30.2	18.6	14.0	4.7	15.1	0.0
公社債投資信託 のみ保有層	18	55.6	33.3	16.7	11.1	16.7	11.1	16.7	0.0
その他投資信託 保有層	33	42.4	18.2	27.3	15.2	18.2	0.0	15.2	3.0

## (7) 東日本大震災後の資産運用やリスクについての考え方の変化

「東日本大震災」を経て資産運用やリスクについて考えに変化があったかを尋ねたところ、「特に変化はない」が 76.5%を占めている。一方、具体的な変化としては、「国債や公共性が高い株式・債券でも安心できないと思った」が 13.1%で最も高く、「金融資産の書類の所在や内容を再確認した」(6.2%)、「金融資産の状況を再確認した」(4.6%)の順となっている。

対象者属性別にみると、性別では大きな差はみられない。

年代別では、「特に変化はない」は 20代では 85.8%と高いが、年代が上がるにしたがって低下し、70歳以上では「特に変化はない」は 66.9%にとどまる。

年収別では、「公共性が高い株式・債券でも安心できないと思った」が 800万円以上 1000万円未満の層でやや高い以外には、大きな差はみられない。

地域別では、阪神圏の方が首都圏より「特に変化はない」が高く、影響の大きさに違いがみられる。

投資信託保有状況別については、現在保有層や保有経験層、保有未経験・投信関心層では「特に変化はない」が 50~60%と他層に比べて低めである。具体的な変化の中では「国債や公共性が高い株式・債券でも安心できないと思った」は現在保有層で最も高く、31.0%となっている。保有未経験層の中では、関心度が低いほど「特に変化はない」が高く、非関心層と非認知層では 80%以上と特に高い。

投資信託保有種類別にみると、株式投資信託保有層は他の層に比べ「国債や公共性が高い株式・債券でも安心できないと思った」が高い。

問 34【東日本大震災後の資産運用やリスクについての考え方の変化(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

	N	国債や公共性の高い株式・債券でも安心できないと思った	金融資産の書類の所在や内容を再確認した	金融資産の状況を再確認した	すぐに換金できる金融商品の割合を増やしたいと思った	分配金・配当金のある金融商品の割合を増やしたいと思った	外貨建て等の金融商品などの割合を増やしたいと思った	その他	特に変化はない	無回答	
全体	1509	13.1	6.2	4.6	3.8	2.6	1.7	0.4	76.5	0.5	
性別	男性	755	12.7	5.3	4.0	4.2	2.8	2.0	0.4	77.4	0.3
	女性	754	13.5	7.2	5.3	3.3	2.4	1.5	0.4	75.7	0.7
年代別	20代	233	9.0	2.1	2.6	2.6	0.9	0.9	0.9	85.8	0.0
	30代	318	11.9	3.8	2.8	3.8	1.9	2.5	0.3	80.5	0.0
	40代	277	13.0	4.7	4.7	5.8	1.8	2.2	0.0	76.9	0.4
	50代	238	16.8	8.4	6.7	2.9	1.3	1.3	0.0	71.4	0.0
	60代	268	13.4	8.2	4.9	2.6	3.4	1.1	0.4	74.3	1.1
	70歳以上	175	15.4	12.6	7.4	5.1	8.0	2.3	1.1	66.9	1.7
	年収別	100万円未満	407	13.5	5.4	4.2	3.4	1.5	1.0	0.7	78.6
~300万円未満	394	9.9	6.3	4.3	3.8	3.3	1.5	0.3	78.9	0.5	
~500万円未満	274	13.9	7.7	6.6	3.6	3.3	2.9	0.0	72.6	0.7	
~800万円未満	202	14.4	5.9	3.5	3.5	2.0	1.5	1.0	76.7	0.0	
~1000万円未満	59	22.0	3.4	3.4	3.4	5.1	5.1	0.0	71.2	0.0	
1000万円以上	27	18.5	11.1	3.7	11.1	3.7	3.7	0.0	55.6	0.0	
地域別	首都圏	900	15.8	7.3	6.0	4.2	2.9	2.1	0.3	72.9	0.4
	阪神圏	609	9.2	4.6	2.6	3.1	2.1	1.1	0.5	81.9	0.5

問 34【東日本大震災後の資産運用やリスクについての考え方の変化／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

	N	国債や公共性の高い株式・債券でも安心できないと思った	金融資産の書類の所在や内容を再確認した	金融資産の状況を再確認した	すぐに換金できる金融商品の割合を増やしたいと思った	分配金・配当金のある金融商品の割合を増やしたいと思った	外貨建て等の金融商品などの割合を増やしたいと思った	その他	特に変化はない	無回答	
全体	1509	13.1	6.2	4.6	3.8	2.6	1.7	0.4	76.5	0.5	
保有状況別	現在保有層	142	31.0	10.6	9.2	10.6	11.3	6.3	0.0	51.4	0.7
	保有経験層	99	21.2	12.1	9.1	5.1	5.1	2.0	0.0	60.6	1.0
	保有未経験・投信関心層	87	21.8	11.5	11.5	10.3	8.0	3.4	1.1	56.3	0.0
	保有未経験・中間層	144	15.3	5.6	3.5	5.6	2.1	1.4	1.4	74.3	0.0
	保有未経験・非関心層	917	9.3	5.2	3.3	1.7	0.7	1.0	0.3	83.1	0.4
	非認知層	111	6.3	0.0	2.7	2.7	1.8	0.0	0.0	88.3	0.9
保有種類別	株式投資信託保有層	86	38.4	11.6	10.5	10.5	9.3	5.8	0.0	47.7	0.0
	公社債投資信託のみ保有層	18	22.2	11.1	5.6	16.7	5.6	5.6	0.0	50.0	0.0
	その他投資信託保有層	33	15.2	6.1	9.1	6.1	18.2	6.1	0.0	60.6	3.0

## 8. インターネットによる金融取引状況(全体)

### (1) インターネット利用頻度

普段のインターネットの利用頻度(ただし、仕事での利用は除く)は、「ほぼ毎日」が 31.6% を占め、最も高い。一方、「パソコンは持っていない・使わない」も 28.4% みられる。

時系列でみると、前回に比べても大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、「パソコンは持っていない・使わない」率は女性の方が男性より高く、「ほぼ毎日」使う率は男性の方が高い。

年代別では、「パソコンは持っていない・使わない」率は 40 代以下では 10% 前後と低いのが、50 代では 23.1%、60 代では 57.1% に急増し、70 歳以上は 72.0% と大半を占める。

年収別では、100 万円以上 300 万円未満の層では「パソコンは持っていない・使わない」比率が最も高く、年収が高くなるにつれてこの比率は低下する。これは、各層の年代別構成比(113 ページ：【対象者年齢／対象者属性別】グラフ参照)の影響もあると考えられる(100 万円以上 300 万円未満の層では、60 代以上比率が最も高い。)。また、「ほぼ毎日」利用率は年収が“300 万円未満”層では 30% ほどと低いのが、800 万円以上 1000 万円未満の層では 47.5% と高い。

地域別では、「パソコンは持っていない・使わない」率は首都圏より阪神圏の方が高い。

投資信託保有状況別でみると、「ほぼ毎日」は保有未経験・投信関心層で特に高く、49.4% となっており、「パソコンは持っていない・使わない」比率も最も低い。この層は、現在保有層や保有経験層に比べて若年層比率が高く、インターネット利用頻度の高さに多少影響しているとみられる。(113 ページ：【対象者年齢／保有状況・保有種類別】グラフ参照)

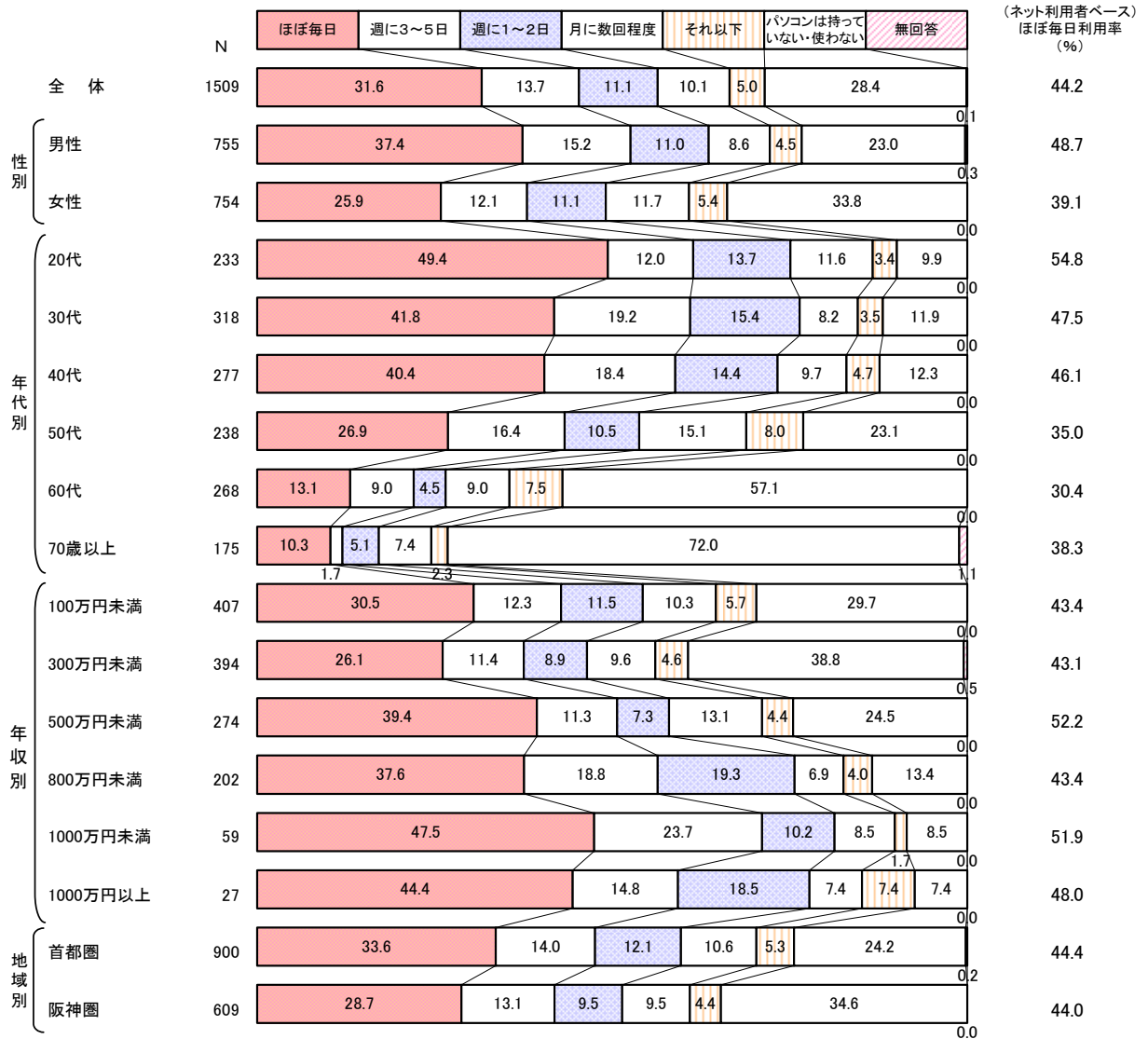
投資信託保有種類別については、N 数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、株式投資信託保有層はそれ以外の層に比べて「ほぼ毎日」がやや高い。

### 問 36 【インターネット利用頻度(単数回答)／時系列】

	N	ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	月に数回程度	それ以下	パソコンは持っていない・使わない	無回答
平成23年	1509	31.6	13.7	11.1	10.1	5.0	28.4	0.1
平成22年	1514	29.6	12.0	11.2	10.4	6.7	30.1	0.1

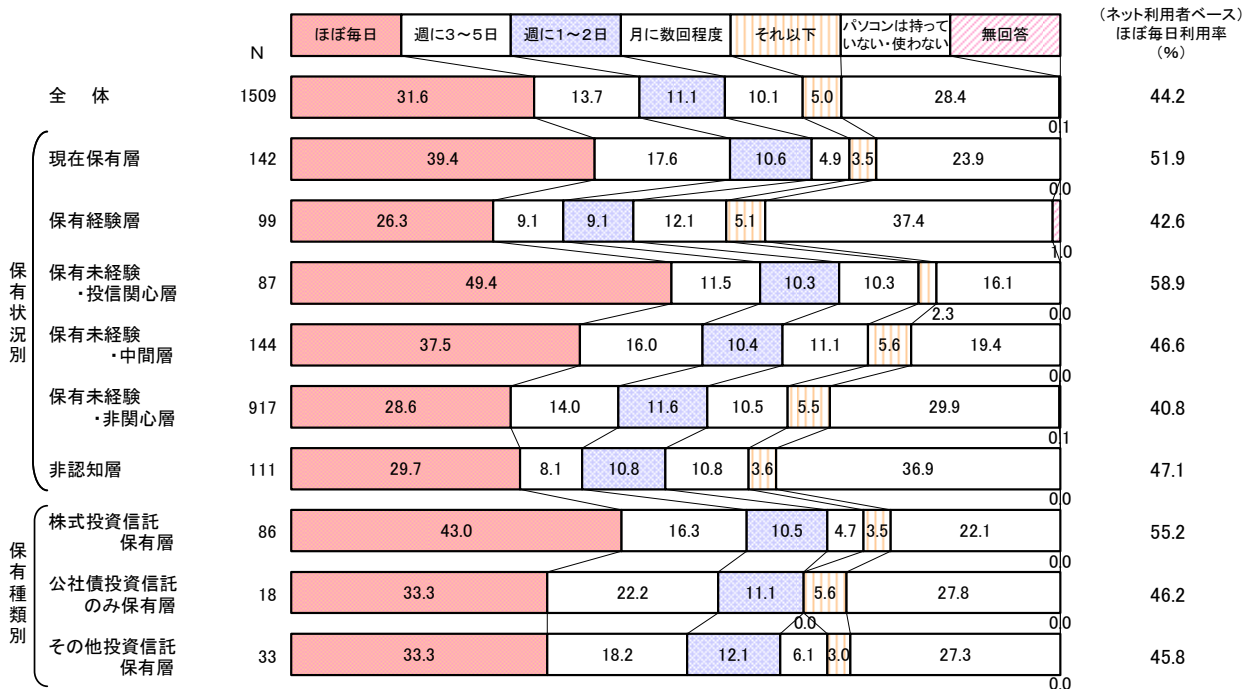
問 36 【インターネット利用頻度(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 36 【インターネット利用頻度(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



## (2) インターネットによる金融取引経験

インターネットの利用の有無に関わらず全員に、インターネットを通じた金融取引経験を尋ねると、「ある」＝取引経験率は 14.0%であり、「利用経験はないが、今後行いたい」＝取引意向率は 5.4%みられる。

時系列でも、特に大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、取引経験率は男性の方が高い。

年代別では、取引経験率は 30 代で 21.1%と最も高く、40～50 代も 15%以上あるが、60 代以上では 10%に満たない。取引意向率は 20～30 代の若年層で 10%近くと比較的高い。

年収別でみると、取引経験率は高年収層ほど高くなる傾向がみられ、800 万円以上 1000 万円未満の層では 42.4%にのぼる。この層では取引意向率も 11.9%と高めである。

地域別では、取引経験率は首都圏の方がやや高い。

投資信託保有状況別にみると、取引経験率は現在保有層が 35.9%で最も高く、次いで保有未経験・投信関心層が 23.0%、保有未経験・中間層が 20.1%、保有経験層が 17.2%で、同程度で並んでいる。保有未経験・投信関心層では取引意向率が 25.3%と特に高く、他層を大きく上回っている。

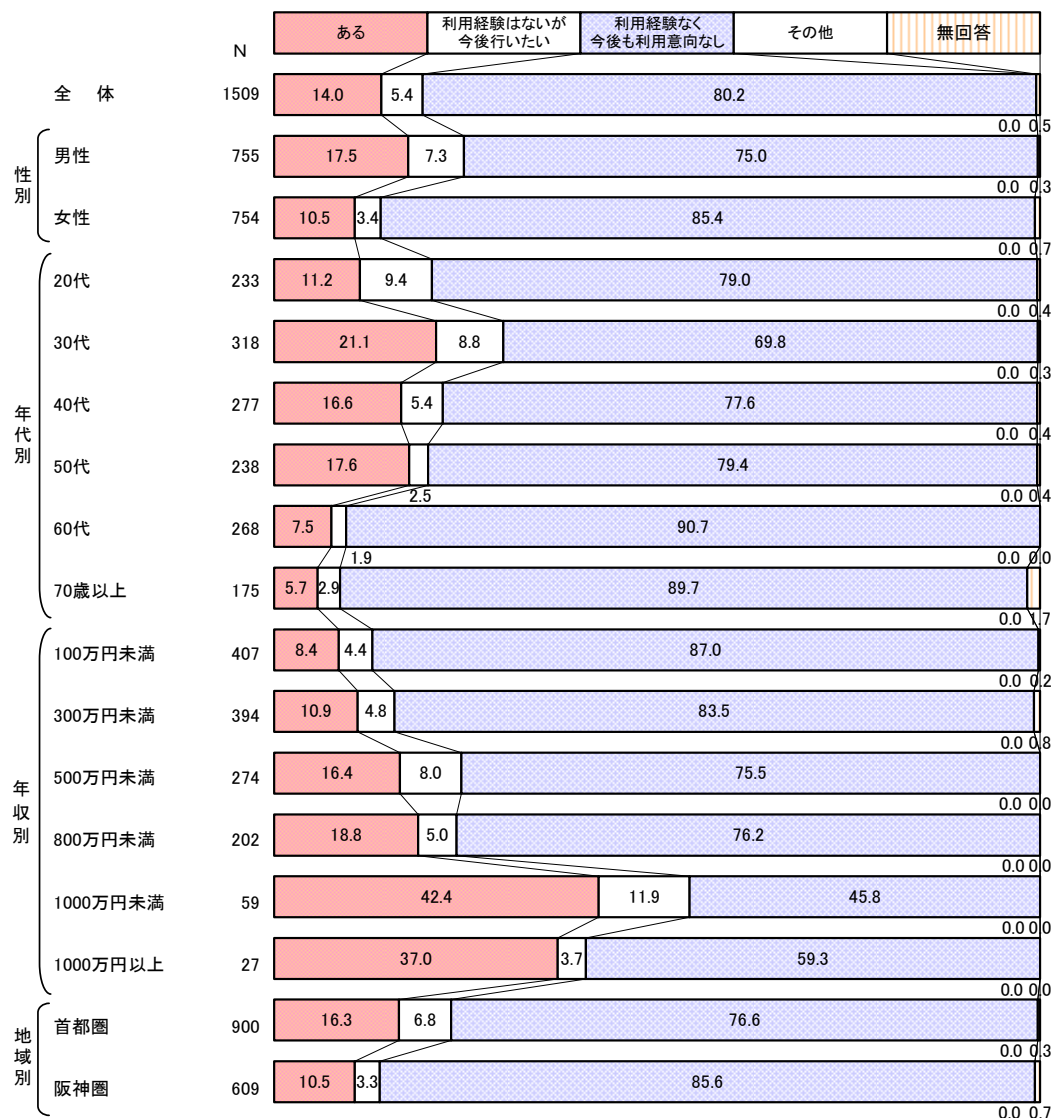
投資信託種類別では、取引経験率は株式投資信託保有層で 43.0%と最も高い。

問 37 【インターネットによる金融取引経験(単数回答)／時系列】

		ある	利用経験はないが 今後行いたい	利用経験なく 今後も利用意向なし	その他	無回答
N						
平成23年	1509	14.0	5.4	80.2		0.0 0.5
平成22年	1514	11.0	6.3	81.3		0.3 1.1
平成20年	1507	11.4	8.1	80.0		0.1 0.4
平成19年	1517	11.0	8.9	79.4		0.4 0.3

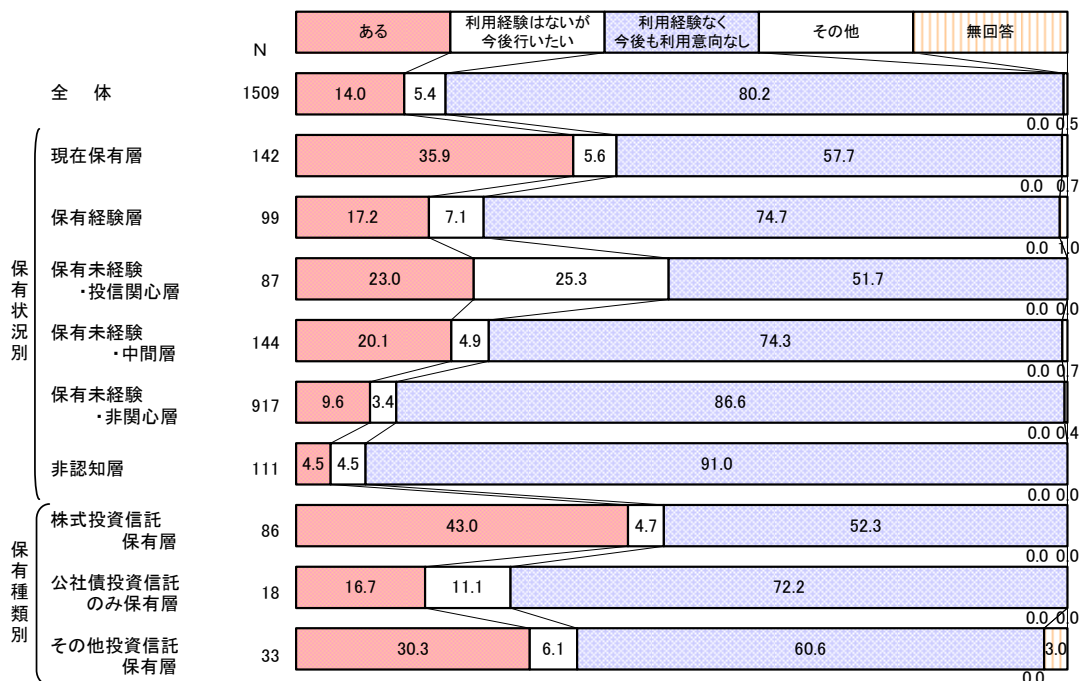
問 37【インターネットによる金融取引経験(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 37【インターネットによる金融取引経験(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



### (3) インターネットによる取引経験のある金融商品(インターネット取引経験者)

インターネットによる金融取引経験がある人に対し、インターネットで取引を行ったことがある金融商品について尋ねたところ、「普通預貯金」が64.5%で最も高く、次いで「株式・国債・公債・社債・転換社債」(35.1%)、「定期預金・外貨預金」(23.2%)、「損保・生保」(20.9%)の順となっており、「投資信託」と「外国為替証拠金取引(FX)」はともに7.1%にとどまる。

時系列でみると、「普通預貯金」は前回よりやや上昇し、「株式・国債・公債・社債・転換社債」は前回よりやや低下したが、ともに平成19年の水準に戻っている。

対象者属性別にみると、性別では、「普通預貯金」のインターネット取引経験率は男性より女性の方が高いが、「株式・国債・公債・社債・転換社債」は男性の方が高い。

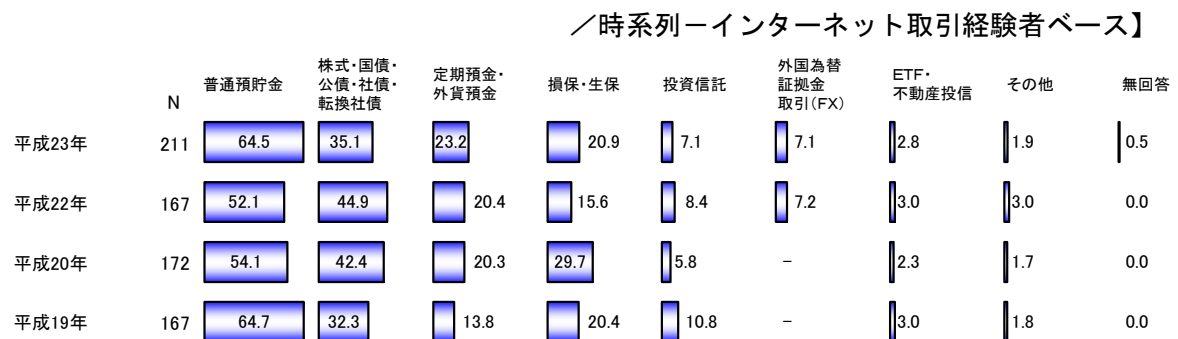
年代別では、N数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、「株式・国債・公債・社債・転換社債」のインターネット取引経験率は年代が高いほど高くなる傾向がみられる。

年収別では、N数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、インターネット取引経験率は「普通預貯金」は年収が低い層ほど高いが、「株式・国債・公債・社債・転換社債」の年収が高いほど高くなる傾向がみられる。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別にみると、N数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、現在保有層では「株式・国債・公債・社債・転換社債」と「定期預金・外貨預金」のインターネット取引経験率は50%前後、「投資信託」も25.5%と他の層に比べて高い。

#### 問 37-1 【インターネット取引経験のある金融商品(重複回答)



※ 平成22年から「外国為替証拠金取引(FX)」を追加。



問 37-1 【インターネット取引経験のある金融商品(重複回答)

／対象者属性別－インターネット取引経験者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

		全 体	普通預貯金	株式・国債 ・公債・社債 ・転換社債	定期預金 ・外貨預金	損保・生保	投資信託	外国為替 証拠金取引 (FX)	ETF ・不動産投信	その他	無回答
全 体		211 100.0	136 64.5	74 35.1	49 23.2	44 20.9	15 7.1	15 7.1	6 2.8	4 1.9	1 0.5
性別	男性	132 100.0	77 58.3	58 43.9	29 22.0	26 19.7	11 8.3	10 7.6	5 3.8	1 0.8	1 0.8
	女性	79 100.0	59 74.7	16 20.3	20 25.3	18 22.8	4 5.1	5 6.3	1 1.3	3 3.8	-
年代別	20代	26 100.0	24 92.3	3 11.5	3 11.5	5 19.2	1 3.8	2 7.7	1 3.8	1 3.8	-
	30代	67 100.0	46 68.7	15 22.4	18 26.9	18 26.9	4 6.0	6 9.0	2 3.0	2 3.0	-
	40代	46 100.0	31 67.4	16 34.8	8 17.4	13 28.3	5 10.9	5 10.9	1 2.2	-	-
	50代	42 100.0	23 54.8	20 47.6	11 26.2	5 11.9	3 7.1	1 2.4	1 2.4	1 2.4	1 2.4
	60代	20 100.0	10 50.0	10 50.0	8 40.0	1 5.0	2 10.0	1 5.0	1 5.0	-	-
	70歳以上	10 100.0	2 20.0	10 100.0	1 10.0	2 20.0	-	-	-	-	-
	100万円未満	34 100.0	28 82.4	6 17.6	9 26.5	7 20.6	1 2.9	2 5.9	1 2.9	-	-
	300万円未満	43 100.0	31 72.1	14 32.6	8 18.6	5 11.6	4 9.3	2 4.7	1 2.3	2 4.7	-
年収別	500万円未満	45 100.0	28 62.2	16 35.6	8 17.8	8 17.8	2 2.2	3 6.7	1 2.2	1 2.2	-
	800万円未満	38 100.0	21 55.3	16 42.1	10 26.3	8 21.1	3 7.9	2 5.3	1 2.6	-	1 2.6
	1000万円未満	25 100.0	15 60.0	12 48.0	8 32.0	8 32.0	4 16.0	3 12.0	2 8.0	-	-
	1000万円以上	10 100.0	7 70.0	5 50.0	4 40.0	3 30.0	1 10.0	1 10.0	-	1 10.0	-
地域別	首都圏	147 100.0	94 63.9	48 32.7	36 24.5	34 23.1	9 6.1	8 5.4	2 1.4	4 2.7	1 0.7
	阪神圏	64 100.0	42 65.6	26 40.6	13 20.3	10 15.6	6 9.4	7 10.9	4 6.3	-	-

問 37-1 【インターネットによる取引経験のある金融商品(重複回答)

／保有状況・保有種類別－インターネット取引経験者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

		全 体	普通預貯金	株式・国債 ・公債・社債 ・転換社債	定期預金 ・外貨預金	損保・生保	投資信託	外国為替 証拠金取引 (FX)	ETF ・不動産投信	その他	無回答
全 体		211 100.0	136 64.5	74 35.1	49 23.2	44 20.9	15 7.1	15 7.1	6 2.8	4 1.9	1 0.5
保有状況別	現在保有層	51 100.0	30 58.8	29 56.9	23 45.1	8 15.7	13 25.5	7 13.7	5 9.8	-	-
	保有経験層	17 100.0	8 47.1	8 47.1	4 23.5	7 41.2	2 11.8	1 5.9	1 5.9	1 5.9	-
	保有未経験 ・投信関心層	20 100.0	13 65.0	6 30.0	6 30.0	4 20.0	-	4 20.0	-	-	-
	保有未経験 ・中間層	29 100.0	21 72.4	8 27.6	5 17.2	7 24.1	-	-	-	1 3.4	-
	保有未経験 ・非関心層	88 100.0	59 67.0	23 26.1	11 12.5	18 20.5	-	3 3.4	-	2 2.3	-
	非認知層	5 100.0	5 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	保有種類別	株式投資信託 保有層	37 100.0	24 64.9	22 59.5	19 51.4	7 18.9	10 27.0	6 16.2	4 10.8	-
公社債投資信託 のみ保有層		3 100.0	2 66.7	1 33.3	2 66.7	-	2 66.7	1 33.3	-	-	
その他投資信託 保有層		10 100.0	3 30.0	6 60.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	-	1 10.0	-	

(4) インターネットによる取引意向のある金融商品(インターネット取引未経験者のうち取引意向者)

インターネットによる金融取引の経験はないが、今後の利用意向がある人に対し、インターネットで取引を行ってみたい金融商品を探ねたところ、「株式・国債・公債・社債・転換社債」が55.6%で最も高く、「普通預貯金」も42.0%と半数近い。以下、「定期預金・外貨預金」(25.9%)、「外国為替証拠金取引(FX)」(13.6%)、「損保・生保」(7.4%)の順に続くが、「投資信託」と「ETF・不動産投信」はともに3.7%にとどまる。

時系列でみると、前回と比べて大きな変化がみられる商品はないが、平成20年以降の傾向としては、「株式・国債・公債・社債・転換社債」は上昇傾向がみられるのに対し、「定期預金・外貨預金」「損保・生保」は低下傾向がみられる。「投資信託」も平成19年以降、わずかに低下傾向となっている。

対象者属性別はN数(サンプル数)が少ない層が多いため、参考までに提示することとする。

問 37-2 【インターネットによる取引意向のある金融商品(重複回答)】

／時系列ーインターネット取引未経験&取引意向者ベース】

	N	株式・国債・ 公債・社債・ 転換社債	普通預貯金	定期預金・ 外貨預金	外国為替 証拠金 取引(FX)	損保・生保	ETF・ 不動産投信	投資信託	その他	無回答
平成23年	81	55.6	42.0	25.9	13.6	7.4	3.7	3.7	1.2	1.2
平成22年	95	51.6	38.9	31.6	11.6	12.6	3.2	5.3	0.0	0.0
平成20年	122	41.0	56.6	42.6	-	26.2	6.6	10.7	2.5	0.0
平成19年	135	51.9	57.0	28.1	-	20.0	5.9	11.1	0.0	0.0

※ 平成22年から「外国為替証拠金取引(FX)」を追加。

問 37-2【インターネットによる取引意向のある金融商品(重複回答)】

／対象者属性別—インターネット取引未経験&取引意向者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

		全 体	株式・国債 ・公債・社債 ・転換社債	普通預貯金	定期預金 ・外貨預金	外国為替 証拠金取引 (FX)	損保・生保	ETF ・不動産投信	投資信託	その他	無回答
全 体		81 100.0	45 55.6	34 42.0	21 25.9	11 13.6	6 7.4	3 3.7	3 3.7	1 1.2	1 1.2
性別	男性	55 100.0	40 72.7	18 32.7	12 21.8	7 12.7	4 7.3	3 5.5	2 3.6	-	1 1.8
	女性	26 100.0	5 19.2	16 61.5	9 34.6	4 15.4	2 7.7	-	1 3.8	1 3.8	-
年代別	20代	22 100.0	13 59.1	6 27.3	5 22.7	4 18.2	-	2 9.1	-	-	-
	30代	28 100.0	15 53.6	13 46.4	8 28.6	5 17.9	3 10.7	1 3.8	2 7.1	1 3.6	1 3.6
	40代	15 100.0	5 33.3	8 53.3	5 33.3	1 6.7	2 13.3	-	-	1 6.7	-
	50代	6 100.0	4 66.7	4 66.7	1 16.7	-	1 16.7	-	-	-	-
	60代	5 100.0	4 80.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	-	-	-	-	-
	70歳以上	5 100.0	4 80.0	2 40.0	1 20.0	-	-	-	-	-	-
	100万円未満	18 100.0	5 27.8	10 55.6	2 11.1	3 16.7	-	-	-	1 5.6	-
	300万円未満	19 100.0	12 63.2	7 36.8	7 36.8	4 21.1	1 5.3	1 5.3	-	-	-
500万円未満	22 100.0	12 54.5	10 45.5	5 22.7	4 18.2	2 9.1	-	1 4.5	-	-	
800万円未満	10 100.0	6 60.0	4 40.0	3 30.0	-	2 20.0	1 10.0	1 10.0	-	1 10.0	
1000万円未満	7 100.0	5 71.4	2 28.6	2 28.6	-	1 14.3	1 14.3	1 14.3	-	-	
1000万円以上	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-	
地域別	首都圏	61 100.0	34 55.7	26 42.6	16 26.2	8 13.1	6 9.8	3 4.9	3 4.9	1 1.6	1 1.6
	阪神圏	20 100.0	11 55.0	8 40.0	5 25.0	3 15.0	-	-	-	-	-

問 37-2【インターネットによる取引意向のある金融商品(重複回答)】

／保有状況別—インターネット取引未経験&取引意向者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

		全 体	株式・国債 ・公債・社債 ・転換社債	普通預貯金	定期預金 ・外貨預金	外国為替 証拠金取引 (FX)	損保・生保	ETF ・不動産投信	投資信託	その他	無回答
全 体		81 100.0	45 55.6	34 42.0	21 25.9	11 13.6	6 7.4	3 3.7	3 3.7	1 1.2	1 1.2
保有状況別	現在保有層	8 100.0	5 62.5	4 50.0	4 50.0	-	2 25.0	-	1 12.5	1 12.5	-
	保有経験層	7 100.0	4 57.1	2 28.6	-	1 14.3	1 14.3	-	-	-	1 14.3
	保有未経験 ・投信関心層	22 100.0	16 72.7	7 31.8	7 31.8	4 18.2	-	3 13.8	2 9.1	-	-
	保有未経験 ・中間層	7 100.0	3 42.9	3 42.9	3 42.9	-	-	-	-	-	-
	保有未経験 ・非関心層	31 100.0	15 48.4	17 54.8	6 19.4	4 12.9	3 9.7	-	-	-	-
	非認知層	5 100.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	-	-	-	-	-
	保有種類別	株式投資信託 保有層	4 100.0	3 75.0	1 25.0	1 25.0	-	1 25.0	-	1 25.0	-
公社債投資信託 のみ保有層		2 100.0	-	100.0	50.0	-	50.0	-	-	1 50.0	-
その他投資信託 保有層		2 100.0	2 100.0	1 50.0	2 100.0	-	-	-	-	-	-